

すこやかな毎日、
ゆたかな人生

Glico

CSRレポート 2023

Glicoグループ

目次・編集方針

社長メッセージ	03
CSRの考え方・推進体制	04
マテリアリティ（重要課題）	05
地球とともに	
Glicoグループ環境ビジョン2050	10
環境方針・体制	13
環境実績	15
気候変動への取り組み	18
商品・サービスへの環境負荷低減	25
食品廃棄物削減に向けて	28
資源の有効活用	31
社会とともに	
【品質保証】品質への想い・こだわり	33
【品質保証】安全・安心への取り組み	35
お客様満足のために	39
お客様の声を活かした改善	43
人財育成	49
ダイバーシティ&インクルージョン推進	50
働きやすい職場づくり	56
安全衛生	60
人権の尊重	61
サプライチェーンマネジメント	68
地域貢献	72
事業活動の基盤	
コーポレート・ガバナンス	79
コンプライアンス	84
健康経営	85
関連団体への参画	92

編集方針

当CSRレポートは、ステークホルダーの皆さまに、GlicoグループのCSR（Corporate Social Responsibility）に対する考え方や取り組み姿勢、具体的な活動についてご理解いただくことを目的に発行いたしました。

報告対象組織

江崎グリコ株式会社ならびにGlicoグループ各社

報告対象期間

2022年度（2022年1月1日～2022年12月31日）

※一部2021年度以前および2023年の活動も含まれています。

発行月

2023年5月（年1回発行）

※情報については、発行時点での最新のものを掲載しています。

※記載されている会社名、商品名等は、各社の登録商標または商標です。

参考にしたガイドライン等

GRIスタンダード

環境省発行「環境報告ガイドライン（2018年版）」

発行

江崎グリコ株式会社

CSR推進室

お問い合わせ先

グリコお客様センター：☎ 0120-917-111

※平日のみ



お客さまの高まる期待に こたえるために、 新たな価値を生み出し続けます

Glicoグループは創立101周年を迎えました。当社の発展を支えてくださったお客さまをはじめとする多くの方々に心より感謝申し上げます。

近年の世界的な公衆衛生に関する危機は、生活者に価値観や生活様式を見直す機会をもたらし、健康管理や免疫への意識を急速に高めました。健康的な生活を送るため、運動・栄養・休息の重要性についても再認識されたように感じます。そこで当社は、生活者の健康を維持・向上させたり、乳幼児の成長を促したりする製品の開発や、機能性素材の研究開発に力を入れ、お客さまの生活になくてはならない商品の充実に努めています。また、さらなる成長を目指し、アジア地域で菓子や飲料などの食品事業に注力するなど、グローバル展開も加速させています。

100周年にあたる2022年には、存在意義（パーパス）を「すこやかな毎日、ゆたかな人生」と決めました。この言葉には、生活者の皆さまがそれぞれの「すこやかな毎日」を送り、その日々の積み重ねによって「ゆたかな人生」を実現できるよう、事業を通じて貢献していくのだという当社の強い意志を込めています。そしてその原点は、Glicoグループ創業の精神にあります。

創業者・江崎利一は、今から100年以上も前、人々がまだ栄養不良・不足の状態であった時代に、牡蠣の煮汁に含まれる栄養素「グリコーゲン」と出会いました。そして、その栄養を摂取することで病気の予防に役立ててもらいたいと考え、創意工夫による試行錯誤を重ね、栄養菓子『グリコ』を創製しました。かねて事業を通じて社会に貢献したいと考えていた創業者は、その想いを当時の社是となった「食品による国民の体位向上」という言葉で表現しました。その後、創立70周年にあたる1992年には、企業理念を「おいしさと健康」へと改訂しています。

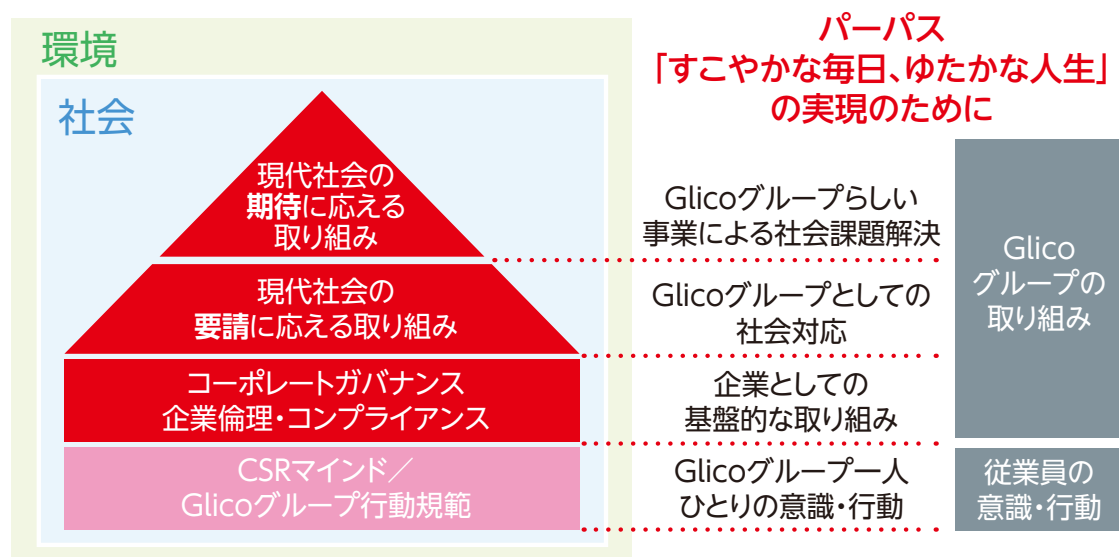
会社としての歴史が一世紀を超えた今も、「人々の健康に貢献する」との精神は変わることはありません。一方で、社会変化のスピードが速い現代においては、変わりゆく人々の期待に応え続けていくことも必要です。これからも新たな価値を創出し、社会に役立つ存在であり続けるため、グループが一丸となり積極果敢に行動を起こしていく所存です。そして、より良い社会の実現のため、さまざまな組織や活動とも連携を深めながら、中長期視点で「事業を通じて社会に貢献する」経営に取り組んでまいります。今後ともより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年5月
江崎グリコ株式会社
代表取締役社長
江崎 悦朗

CSRの考え方・推進体制

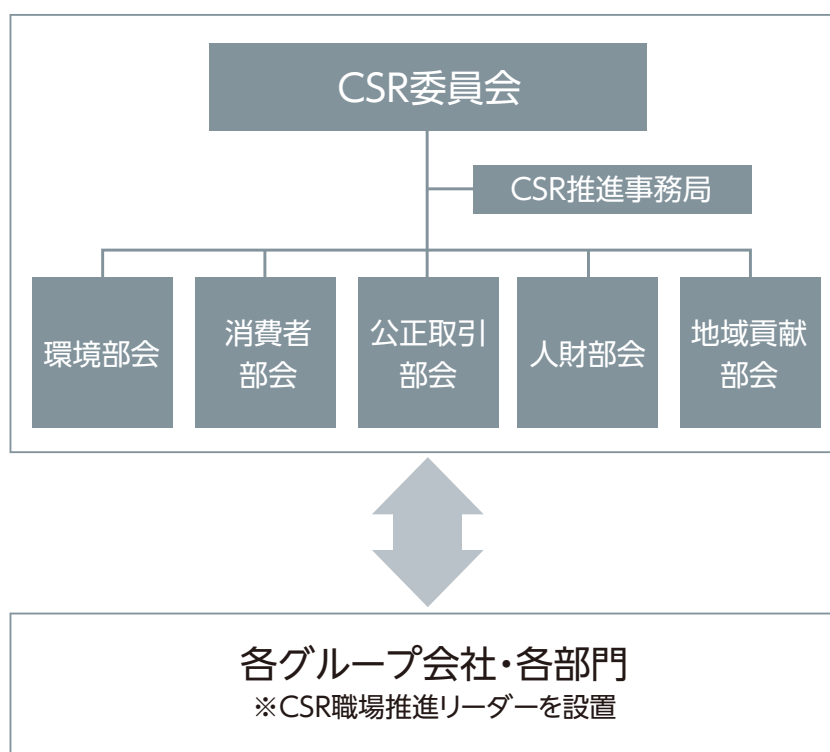
GlicoグループのCSRの考え方

Glicoグループは、創業者・江崎利一が、「食品を通じて国民の体位向上に貢献したい」という信念のもと、グリコーゲン入りの栄養菓子グリコを創製したことに始まります。私たちは、この創業者の想いを受け継ぎ、パーパス「すこやかな毎日、ゆたかな人生」を実現し、世界の人々が豊かで笑顔あふれる人生を歩めるように、ココロとカラダの健康に貢献することを使命として活動して参りました。これからの時代においても、世界でこの使命を果たし続けていくため、変わり行く時代の要請や期待に応え、新たな価値の創造にチャレンジし、社会とともに発展して参ります。



CSR推進体制

Glicoグループでは、CSRの推進を重要な経営課題と捉えており、江崎グリコの代表取締役を最高責任者とするCSR委員会を設置して、グループ全体でCSRを推進する体制を敷いています。CSR委員会は議題毎に年に数回実施し、CSR推進の方向性の策定や進捗状況の確認等を行っています。CSR委員会の活動状況については、江崎グリコの取締役会等にて報告を行い、CSRを経営に反映させながらグループ一体となって推進する体制を取っています。



マテリアリティ（重要課題）

Glicoグループは、パーパス「すこやかな毎日、ゆたかな人生」を実現し、事業を通じて社会に貢献し続けていくために、取り組むべきマテリアリティ（重要課題）を明確にした上での活動が重要であると考えています。

2019年6月には消費者、取引先、従業員、株主・投資家等のステークホルダーの声を踏まえ、マテリアリティの特定を実施しました（「CSRレポート2019」参照）。今回は、さらに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指して、グローバルにおける社会課題の視点を強化し、社外の有識者からもご意見をいただきながら、マテリアリティの見直しを行いました。

この度特定したマテリアリティの内容をもとに、中長期における目標・KPIを策定し、活動を推進していきます。

マテリアリティ（20項目）		関連する主なSDGs
製品安全・消費者・コミュニティ課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な商品・サービスの提供 ・人々の健康への貢献 ・公正で誠実なマーケティング ・貧困解消への貢献 ・消費者のプライバシーの保護 ・持続可能な消費とライフスタイルの提案 	        
労働・人権課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人財の育成 ・ダイバーシティ & インクルージョン ・労働安全衛生 	
環境・社会共通課題	<ul style="list-style-type: none"> ・共創とイノベーションの推進 ・商品・サービスのライフサイクル全体での環境社会配慮 ・サプライチェーンの環境社会配慮 	
環境課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動の緩和と適応 ・資源循環と廃棄物削減 ・水資源の管理 ・生物多様性の保全 	
コンプライアンス・ガバナンス課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンス ・人権尊重のマネジメント ・情報開示と対話の推進 ・企業倫理の実践と腐敗防止 	

- 製品安全・消費者・コミュニティ課題
- 労働・人権課題
- 環境・社会共通課題
- 環境課題
- コンプライアンス・ガバナンス課題



マテリアリティの特定プロセス

取り組むべきマテリアリティを明らかにするために、調査・分析を行いました。分析の際は、国連グローバル・コンパクトの10原則、持続可能な開発目標（SDGs）、ISO26000の他、GRIスタンダードやSASB等の示す非財務情報開示基準、FTSEやMSCIをはじめとするESG評価機関の評価項目等を参照しています。具体的な特定プロセスは以下の通りです。





①マテリアリティ候補案作成

Glicoグループの企業理念・行動規範・経営計画等をもとに、国連グローバル・コンパクトの10原則やSDGs等の国際的な枠組み、ISO26000・GRIスタンダード・SASB等のガイドライン、各種ESG評価項目等の視点も加え、マテリアリティの候補項目をリストアップしました。



②ワーキンググループで検討

関係部署を交えたワーキンググループによる検討を実施。①でリストアップしたマテリアリティ候補項目を、「ステークホルダーの要請・期待」と「事業への影響度」の2軸でマッピングし、優先して取り組むべきマテリアリティ候補の案を抽出しました。



③CSR委員会で議論

②で抽出したマッピング案・優先して取り組むべきマテリアリティ候補の案について、経営層が参加するCSR委員会において議論を実施しました。



④有識者ヒアリング

③で議論されたマテリアリティ候補案について、妥当性を確認するため、外部の有識者にヒアリングを実施。いただいた提案・指摘内容をもとにマテリアリティ案を再評価しました。

<ご意見をいただいた有識者>



IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表
川北 秀人 氏



グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事
河口 真理子 氏



2020年6月に実施した有識者ヒアリングの様子

< 主なご意見 >

◆商品・サービスを通じた価値提供について

・『安全・安心な商品・サービスの提供』は、食品企業として重要です。「食の安全」を確保するため、さまざまな取り組みが行われていると思いますが、それだけでは消費者が「安心」できるとは限りません。これからの時代は、人権や動物福祉（アニマルウェルフェア）※1に配慮されていることも「安心」に大きく関係すると考えます。Glicoグループがこれからの時代に提供する「安全・安心」を深掘りしたうえで活動を推進し、その情報を積極的に開示することを推奨します。

・『人々の健康への貢献』のためには、取りすぎると健康を損なうリスクのある成分（糖類、塩分等）を減らすだけでなく、取り続けることで健康になる機能性を持つような付加価値の高い商品・サービスの拡大を期待します。

◆人権課題について

SDGsの目標である2030年に向けて、人権課題に対するステークホルダーの関心はさらに高まると考えます。例えば、発展途上国からの原材料調達において、児童労働や強制労働が行われていないか等の『サプライチェーンの環境社会配慮』が重要になります。また、長時間労働が行われていないか等、従業員の『労働安全衛生』が十分に担保されているのかということも、人権課題の一つとして重要です。事業活動や取引関係を通じた人権への負の影響を特定し、防止し、軽減し、対処する『人権尊重のマネジメント』を推進し、その活動を積極的に情報開示すべきです。

◆環境課題について

『気候変動の緩和と適応』『生物多様性※2の保全』はグローバルにおいて重要な課題です。これまでは、気候変動の「緩和」に関する活動が目立っていましたが、気候変動の影響が拡大し、異常気象が多発している中、「適応」に関する活動の重要性が高まっています。このことは、商品・サービスに不可欠な原材料の調達等にも直結します。環境負荷を下げ、気候変動への「適応」も進めるべきです。

◆今後について

・Glicoグループの商品・サービスを使用し続けることで、「健康に良い」だけでなく、人権、環境、消費者課題の解決にもつながることを期待します。

・時代の変化や今後の事業活動を踏まえ、3～5年後にマテリアリティやポートフォリオを見直すことを推奨します。

※1 動物福祉（アニマルウェルフェア）とは

動物が、健康で、快適で、十分な栄養が与えられ、安全で、動物本来の行動が可能であり、痛み、恐怖、苦痛等の不快な状態に苦しんでいない状態で飼育されていることを意味します。

※2 生物多様性とは

地球上の生態系、種、遺伝子の「多様さ」を示します。私たちの暮らしは食料や水の供給、気候の安定等、生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みによって支えられています。



⑤取締役会での議論を経て策定

④で再評価・整理された課題およびGlicoグループにおける位置付けについて、2020年7月15日に江崎グリコにおける取締役会での議論を経て、Glicoグループのマテリアリティを策定しました。

今後の取り組み

◆商品・サービスを通じた価値提供について

パーパス「すこやかな毎日、ゆたかな人生」を実現し続けるため、世界の人々がおいしくて健康な食と生活習慣を取り入れ、よりよい毎日を送るための商品・サービスを拡大します。また、食品企業として、商品・サービスの安全・安心はもちろんのこと、バリューチェーン全体の安全・安心を高めていきます。

◆人権課題について

「Glicoグループ人権方針」のもと、ステークホルダーの皆さまとともに活動を推進します。

◆環境課題について

「Glicoグループ環境ビジョン」を策定し、気候変動の緩和と適応、生物多様性等に関する長期的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みます。

このように、事業を通じて人々の健康に寄与するとともに、さまざまな社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会に貢献することを目指して活動していきます。

マテリアリティの特定結果をもとに、中長期における目標・KPIの策定を行う予定です。策定したKPIについては、本ホームページにて公開します。

なお、時代の変化や今後の事業活動を踏まえ、2024年にマテリアリティの見直しを検討予定です。

地球とともに

豊かな地球環境を未来につないでいくために企業活動を推進します。



Glicoグループ環境ビジョン2050

Glicoグループ環境ビジョン2050の策定

2021年3月、Glico グループは重要課題に基づいた4つの分野について、2050年をゴールとした中長期ビジョンを設定しました。豊かな地球環境を未来につないでいくため、活動を推進していきます。

Glicoグループ環境ビジョン2050

資源循環社会の実現に向けて、企業市民としての責務を果たします



Glicoグループ中長期環境定量目標・取り組み内容

環境ビジョンをもとに、中長期における目標・KPIを策定しました。今後は設定したKPIの達成に向けて取り組み、持続可能な社会に貢献することを目指して活動していきます。



<取り組み内容>

1 気候変動への対応 温室効果ガスの削減

Glicoグループでは、企業活動で使用する電気、ガス等の使用量を管理し、CO₂の排出量を削減しているほか、工場等で新しい設備を導入する際には、省エネルギーやノンフロンなど環境面に十分に配慮した設備への切り替えを進めています。2050年までに、再生可能エネルギーへの切り替えやコージェネレーションシステムによる効率化、冷凍機の更新などを通じ、温室効果ガス（CO₂やフロンガスなど）を100%削減することを目指します。

2 持続可能な 水資源の活用

Glicoグループでは、一部の工場において、排水を冷凍設備の冷却に再利用するなど、水資源の使用量削減に取り組んでいます。2050年までに、空冷式システムの採用や水処理技術の向上などを通じ、水の使用量原単位を20%削減および水質汚染ゼロ化を目指します。

3 持続可能な 容器包装資源の活用

Glicoグループでは、容器・包装の機能を追求するとともに、減量化による環境負荷の低減にも取り組んでいます。2050年までに、生産技術向上および規格見直しによる減量化やバイオマス素材への転換などを通じ、プラスチックをリサイクル原料に、紙を森林認証紙にそれぞれ100%切り替えることを目指します。

4 食品廃棄物の 削減

Glicoグループでは、製造工程での廃棄物の削減に注力するとともに、需給予測の精度向上による過剰在庫を持たない仕組みを通じて、食品廃棄物の削減に取り組んでいます。2050年までに、サプライチェーンの効率化や需給予測精度の向上等、廃棄が発生しない取り組みに注力する他、商品の微細な欠け等、品質に問題がない商品を不揃い品としてアウトレット販売を行う等により、食品廃棄物を95%削減することを目指します。

環境ビジョン・中長期環境定量目標の策定プロセス

CSR委員会環境部会を中心に、専門家のアドバイスを得ながら、長期軸の環境評価の分析を行い、環境ビジョン案および中長期目標案を作成しました。その上で、CSR委員会、取締役会の議論を経て、2021年3月に策定しました。



Glicoグループ環境方針

環境取り組みに関するGlicoグループの姿勢を明確にし、活動の指針とするため、環境方針を定めています。お客様や取引先をはじめとするステークホルダーのご理解とご協力をいただきながら、活動を推進しています。

Glicoグループ環境方針

Glicoグループは、温室効果ガスの排出削減や持続可能な資源の活用等をはじめとした環境負荷低減を通じて自然環境の保全に貢献し、地球に生きる様々な生物との共生を実現します。

1. 私たちは、お客様に高品質で安全・安心な製品やサービスをお届けすると共に、原材料の調達から生産や供給、最終的に容器包装が廃棄されるまでの過程において、環境負荷の低減に取り組めます。
2. 私たちは、環境汚染の予防や生態系への配慮、地球温暖化防止に取り組む、また資源の有効活用を通じて大切な地球が持続可能な社会となるように、法令などのルールを順守し、企業としての社会的責任を果たします。
3. 私たちは、企業活動の質的向上につなげるため、業務の見直しや効率化に取り組みながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境パフォーマンスの向上に努めます。
4. 私たちは、環境保全への意識向上を図ると共に、従業員が安全に、そして安心して働けるような事業所を追求していきます。
5. 私たちは、お客様をはじめとする社会とのつながりを大切にしながら、様々なコミュニケーションや社会貢献の活動を推進します。

制定 2000年2月

改訂 2016年4月

改訂 2021年2月

改訂 2023年1月

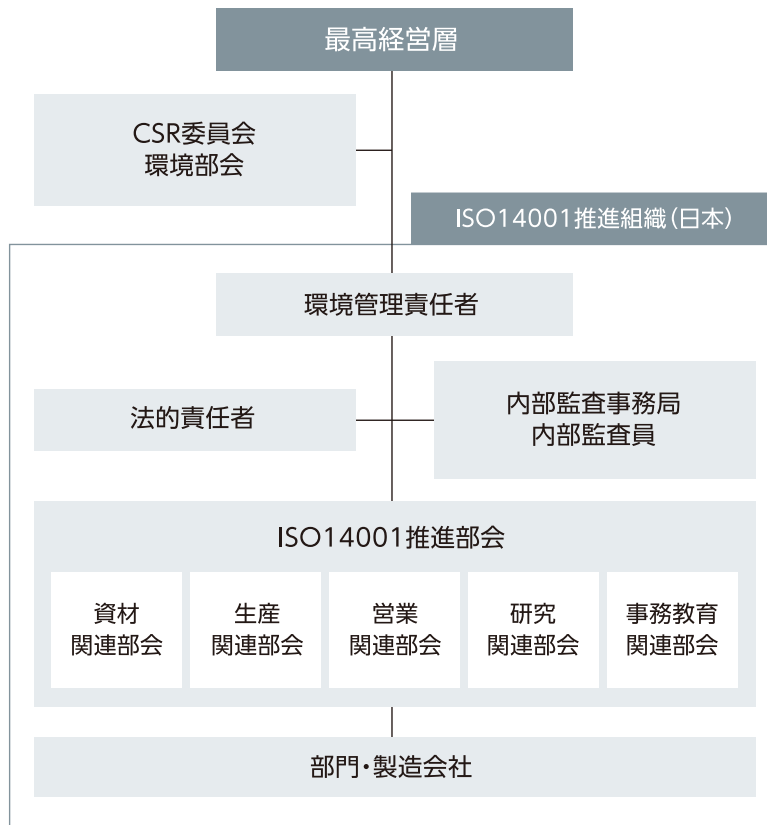
Glicoグループ環境活動指標

- 商品・サービスへの環境負荷低減
- 地球温暖化防止
- 環境汚染の防止
- 資源の有効活用
- 業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上
- 環境教育や安全取り組み
- 環境コミュニケーションの推進



バリューチェーン全体において、環境にやさしい企業活動を推進しています。

環境活動推進体制



環境実績

取り組み目標と実績

2023年度の目標

- 環境にやさしい製品設計
 - 紙包材への森林認証紙採用率向上
 - 1WAYプラスチック包材の使用を削減する
- 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み
 - CO₂総排出量を削減する
 - 物流によるCO₂原単位を削減する
- 廃棄物・食品ロスへの取り組み
 - 食品リサイクルを推進し、有効活用できない食品廃棄を削減する
- 環境教育や地域社会との共生、コミュニケーション
 - 環境教育や地域貢献活動を通じ、地域社会との共生や良好なコミュニケーションを築く

2022年度の取り組みと結果

1.環境にやさしい製品設計

2022年度の目標	結果・達成率	評価
1WAYプラスチックの削減推進	単年度目標の削減率には未達	△
環境配慮型包材への切り替えを促進する	森林認証紙採用率の向上	○

2.省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み

2022年度の目標	結果・達成率	評価
CO ₂ 排出量をベンチマーク比8%削減する	24%削減 ※国内製造会社CO ₂ 排出量	○
物流によるCO ₂ 排出原単位をベンチマーク比99%以下にする	94.7% ※国内販売高原単位	○


3.産廃物ゼロ取り組み（ゼロエミッション）

2022年度の目標	結果・達成率	評価
全製造会社で原材料ロスをベンチマーク比95%以下にする	94.1% ※国内製造会社	○
製品廃棄をベンチマーク比12%以上削減する	48% ※国内の製品廃棄で食品リサイクルされない廃棄	○

4.環境教育


従業員が公私を通じて環境への意識を高め、環境保全活動に積極的に取り組むように、eラーニングのシステムを活用し、教育内容の理解度を確認するためのテストを実施する等、定期的に環境教育を行っています。

また、ISO14001に関するより専門的な知識を習得し、内部監査員として活動するメンバーの養成講座も開催しています。



A【過去分】定期環境教育

タイプ: eラーニング



**B【対象者のみ】内部監査員養成
セミナーフォローアップ講習**

タイプ: eラーニング

2022年度の目標	結果・達成率	評価
環境教育（社外教育含む）を2件実施する	2件実施	○
環境活動を35件実施する	66件実施	○

行政指導・ご指摘等

Glicoグループでは、2022年度の環境に関する行政処分や訴訟等はありませんでした。

東京工場において昭島市による下水道放流水の水質検査で一部排水基準値超過の注意を受けましたが、原因分析の結果、採水時の工場排水に異常は無く、放流水に別系統で水質規制対象外の生活排水が流入している影響を受けたものとして昭島市に報告し、了解を得ています。

千葉工場における水質分析データの書き換え報告に関しては、「[当社生産子会社の千葉工場での水質分析データの書き換え報告について PDF \(203KB\)](#)」（2023年3月7日）にてご報告しております。

Glicoグループでは、重大な事象として、再発防止の徹底に努めてまいります。

エネルギー等の環境負荷の状況

エネルギー等の使用実績の推移

主なエネルギー・物質	2022年度	前年比	2021年度	2020年度
原単位 (kI/億円)	26.9	100%	26.9	28.8
電気 (千kWh) ※	147,855	103.1%	143,368	147,495
都市ガス (千m ³)	11,617	94.8%	12,260	13,038
LPガス (t)	99	135.6%	73	81
LNガス (t)	926	103.0%	899	0
重油 (千kl)	2.2	94.2%	2.3	4.6
ガソリン (千kl)	0.7	140.0%	0.5	0.4

※コージェネレーションシステムによる発電量を除く。

インプット			Glicoグループ			アウトプット		
原料			Glico グループ	CO ₂ (t) ※	90,941			
包装材料				廃棄物の排出 および再利用	再資源化 (t)	14,543		
主な エネルギー ・資源	電気 (千kWh)	140,438			廃棄 (t)	292		
	水 (千m ³)	2,571			再資源化率 (%)	98%		
	都市ガス (千m ³)	11,617		排水 (千m ³)	1,986			
	LPガス (t)	99						
	LNガス (t)	926						
OA用紙 (t)	36.8							
ガソリン (千kl)	0.7							

※CO₂の電気事業者別排出係数は、
2023年1月に公表された2021年度実績の
調整後係数を使用

※グループ会社のグリコ栄養食品の本社部門・セールス部門の実績を含みます。

環境マネジメントシステム

Glicoグループは、古くから公害対策や省エネルギー・省資源に取り組んできました。2002年2月からは「環境方針」を制定し、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の要求事項に基づいて、継続的に環境負荷の低減や環境保全に取り組んでいます。

ISO14001の認証取得会社・工場（2022年度）

- 江崎グリコ
- 那須工場
- 千葉工場
- 東京工場
- 三重工場
- 神戸工場
- 柏原工場
- 佐賀工場
- 上海江崎格力高食品有限公司閔行第二分公司
- Bangkadi Factory, Thai Glico Co., Ltd.
- 仙台工場
- 茨城工場
- 北本工場
- 岐阜工場
- 大阪工場
- 兵庫工場
- 鳥取工場
- 上海江崎格力高食品有限公司閔行第一分公司
- 上海江崎格力高南奉食品有限公司
- Rangsit Factory, Thai Glico Co., Ltd.

気候変動への取り組み

企業活動で使用する電気、ガス等の使用量を管理し、CO₂の排出量削減に取り組んでいます。また、電気事業者から購入する電力を計画的に再生エネルギー由来に切り替え、工場等で新しい設備を導入する際には、省エネタイプへの切り替えを進めています。

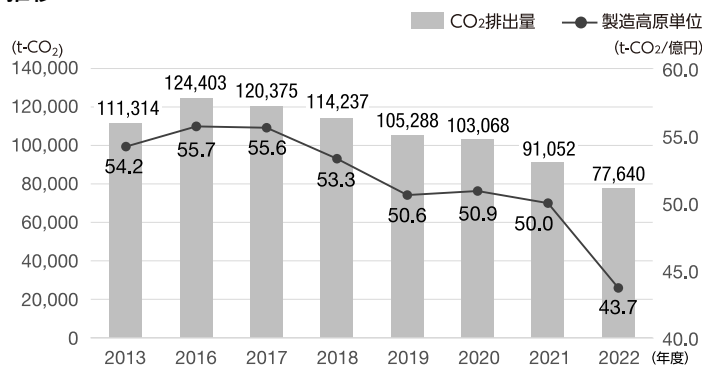
製造工場における取り組み

製造工場では、電気やガスだけでなくさまざまなエネルギーを使用していますが、業務の効率化を図り、省エネを推進しています。また、エネルギーを使用する設備は、計画的に省エネタイプに更新しています。CO₂の排出量が多い重油を使用する設備は、効率を考慮しながら計画的にガス化する等、エネルギー転換を行います。

水の使用に関しては、一部の工場で工業用水を浄化し、トイレ等の用水として使用しているほか、一部の生産ラインでは、冷却排水を冷凍設備の冷却に再利用しています。

2022年度のCO₂排出量は、前年度よりさらに減少しました。従来からの省エネ活動に加えて、工場で使用する電力を再生エネルギー（非化石証書付）電力に計画的に切り替えていることが大きな削減につながっています。その結果、CO₂排出量原単位についても大きく減少しました。

製造工場におけるCO₂排出量の推移



※各年度の電気事業者別の調整後排出係数を使用

※原単位は、t-CO₂/生産高（億円）

※2019年1月～12月の年間実績に換算

<事例> 国内製造工場における再生可能エネルギー化に向けた取り組み

茨城工場では、2022年4月より、購入電力の再生可能エネルギー電力比率を従来の10%から100%に切り替えています。これにより、年間約3,500tのCO₂削減につながる見込みです。2023年4月には、他の東日本5工場においても同様に再生可能エネルギー電力の購入比率を100%に切り替えることで、国内工場の電力使用量の約50%が再生エネルギー由来の電力となります。

<事例> 国内製造工場におけるCO₂削減に向けた取り組み

神戸工場では、2020年2月に、コージェネレーションシステムを更新しました。更新前に比べ、年間約960tのCO₂削減（神戸工場の総排出量の約4%）に貢献しています。那須工場と茨城工場では、2021年2月より、従来のA重油から液化天然ガスに燃料転換したボイラーに更新しました。年間約1,370tのCO₂削減につながっています。



神戸工場コージェネレーションシステム 液化天然ガスに燃料転換したボイラー

<事例> 上海江崎グリコ南奉食品有限公司の取り組み

上海江崎グリコ南奉食品有限公司では、2021年12月より、太陽光パネルによる発電（第1期）を開始し、年間約46万kWhの発電が実現しました。2022年、第2期パネル設置工事をスタートし、2023年2月から発電を開始しました。第1期・第2期合わせて年間約70万kWhの発電、294tのCO₂排出を削減できる見込みです。



上海江崎グリコ南奉食品有限公司

<事例> Glico Manufacturing Indonesiaの取り組み



『Pocky』の最新鋭技術が詰まった新工場、Glico Manufacturing Indonesia が2022年3月末に完成しました。敷地面積は約6万㎡、建物の延床面積は約5万7,000㎡で、『Pocky』の自社工場として過去最大規模です。太陽光パネルを屋根に設置し、年間約124万kWhの発電、年間約1,100tのCO₂排出を削減できる見込みです。

Glico Manufacturing Indonesia

物流における取り組み

Glicoグループでは、商品の輸送時のエネルギー使用量や積載効率等にも配慮して、CO₂の削減を進めています。

- 物流全体の効率を踏まえた物流拠点の展開・見直し
- 同業他社との共同配送の拡充による配送効率の向上
- 増トン車・トレーラー活用による積載量の向上
- 鉄道輸送・船舶輸送へのモーダルシフトの推進

オフィスでの取り組み

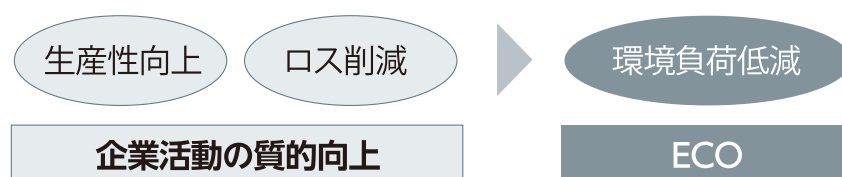
オフィスで最もエネルギーを使用するのは空調設備です。電気の使用量を削減するために、クールビズ・ウォームビズを推奨し、来社されるお客様にも趣旨をご理解いただけるよう案内を行っています。施設面においては、オフィスの照明や電子機器を省エネ型に切り替え、不要時の電源オフ徹底を呼び掛けています。また、オフィスで使用するコピー用紙、名刺については全て森林認証紙を使用しています。

セールスにおける取り組み

セールス部門では、業務の効率化や省エネ、エコドライブを推進しています。CO₂の排出が少ないハイブリッド車への切り替えを進めるとともに効率的な運用にも取り組んでいます。また、グリコチャネルクリエイイトでは、走行時のCO₂排出が少ない電気自動車を導入しています。

業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上

業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上が環境負荷低減につながるという考えのもと、事業活動の生産性向上やロス削減等に取り組んでいます。



表彰・認定等

Glicoグループでは、複数の事業所所在の行政機関から環境に関する表彰や認定をいただいています。

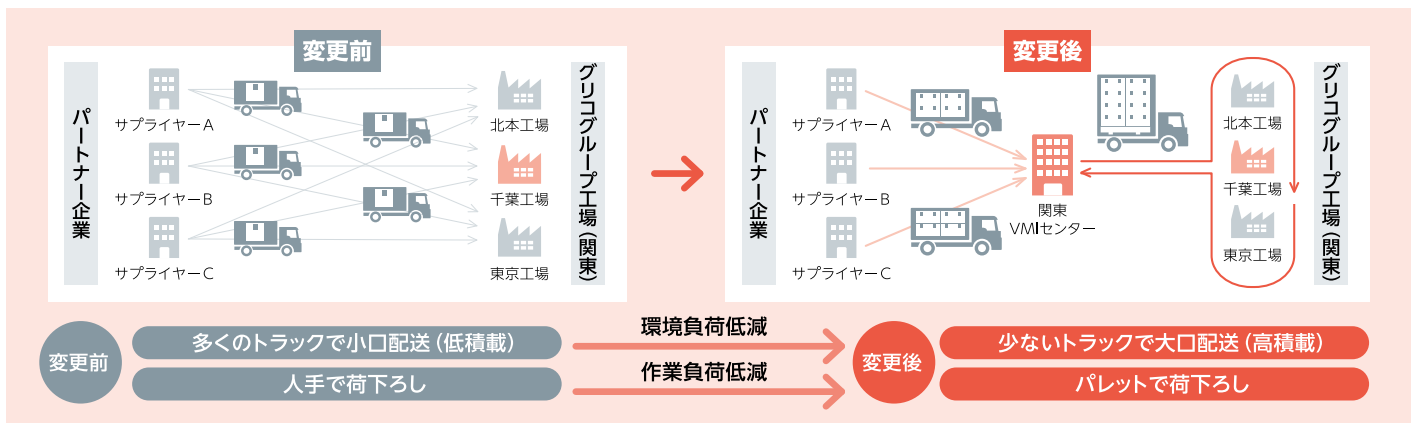
<事例> 江崎グリコが、エコレールマーク取り組み企業として認定

<エコレールマーク認定商品>



<事例> 「令和2年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において、「経済産業大臣表彰」を受賞

2019年10月より、物流における社会課題への取り組みとして、食品製造に必要な原料をサプライヤー各社と共同で一括管理する新たな物流体制「VMI (Vendor Managed Inventory/ベンダーによる在庫管理)」を構築しています。これにより、トラック台数の削減等による環境負荷削減や納品時における荷下ろしの作業負荷低減に貢献しています。



<事例> 「令和3年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において、「国土交通大臣表彰」を受賞

NEXT Logistics Japanほか15社との取り組みとして「『ドライバー不足によりモノが運べなくなる』という社会課題解決に向けた高効率輸送スキームの構築」を実現しました。同取り組みでは、異業種・業態の複数の企業が個社で便を立てて行っていた輸送を、NEXT Logistics Japanのクロスドックセンターに荷を集め、25mダブル連結トラックで束ねて輸送することで、輸送効率を向上させ、省人化や労働環境の改善を図りました。

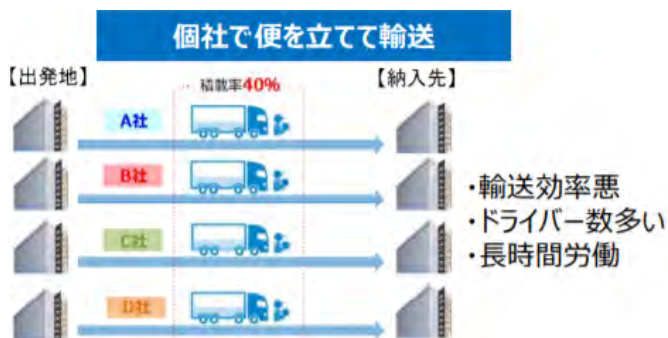
事業者

NEXT Logistics Japan (株)、アサヒグループホールディングス (株)、江崎グリコ (株)、(株)ギオン、鴻池運輸 (株)、鈴与 (株)、千代田運輸 (株)、トランコム (株)、(株)ニチレイロジグループ本社、日清食品ホールディングス (株)、日本梱包運輸倉庫 (株)、日本製紙物流 (株)、日野自動車 (株)、(株)ブリヂストン、三菱HCキャピタル (株)、(株)ユーネットランス

事業概要

事業業態を超えたパートナー各社のノウハウや、CASE技術を活用しオープンな高効率幹線輸送スキームを構築、これを物流に関わる多くの方々より活用いただくことで社会課題の解決を目指す。

実施前



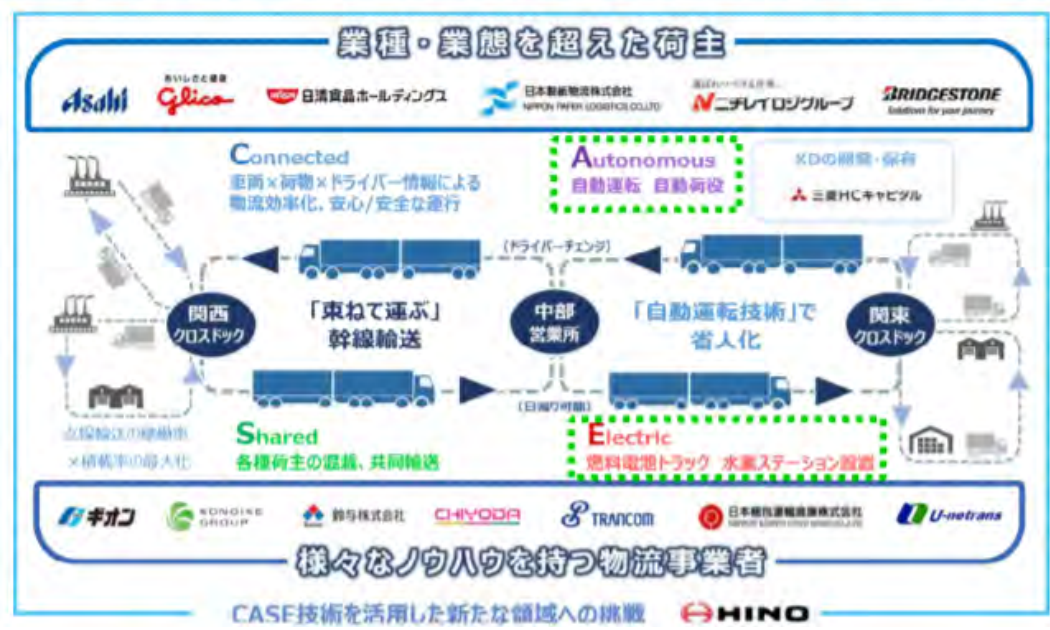
実施後



概念図

※ = 実現に向け、現在推進中の将来構想

業種業態を超えた荷主の荷物を、様々な物流事業者のノウハウを活用して輸送
幹線-支線をトータルでコントロールし、究極の省人化 / 効率化 / CO2低減を目指す



<事例> 「令和4年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において、「物流DX・標準化表彰」を受賞

チルド販売物流でのAI配車を活用した適正化モデルが「令和4年度 物流DX・標準化表彰」を受賞しました。配送車両の効率化による積載率UP、CO₂削減、労働時間の短縮を目指し、ライナロジクス社・ゼンリンデータコム社とAI配車を導入しました。物量・配送リードタイム・納品時間などの配送条件を基にAIが高積載・効率的な配送ルートを生設計、納品時間の微調整を経て大幅なCO₂削減、車両台数の削減、労働時間の短縮を実現しました。

事業名: チルド販売物流における三者一体での協働効率化 ~物流危機を乗り越えるAI配車を活用した適正化モデルの実現~

事業者

江崎グリコ（株）、鴻池運輸（株）、（株）誠和、（株）ゼンリンデータコム、（株）ライナロジクス、ダイセーエブリー二十四（株）

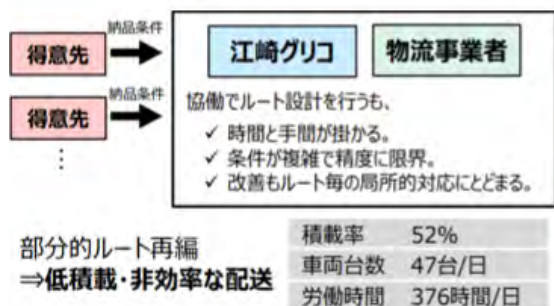
事業概要

納品条件が厳しく効率化が難しいチルド販売物流において、配送ルート最適化設計の方法を、人間の経験と勘のみではなく、AI配車システムを導入し活用。

得意先への納品条件の見直し、車両変更や付帯作業削減によるドライバー作業負担の軽減を合わせて実施することにより、AIの提示した適正モデルを参考に実運行できる状態に整備し、CO₂削減、車両台数削減、労働時間削減、積載率向上を実現。

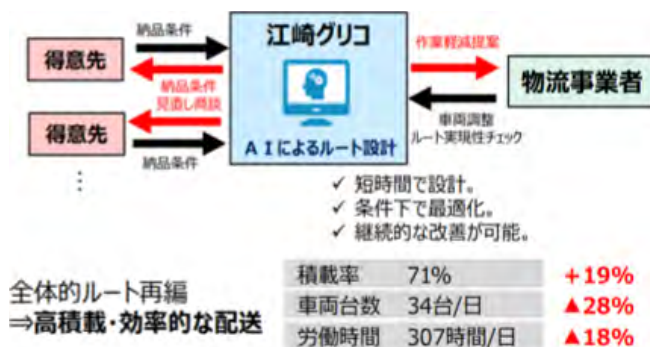
実施前

- チルド販売物流は、賞味期限・納品リードタイムが短く、納品条件が厳しい。
- 得意先毎に提示される納品条件に合わせ、経験と勘による人力のルート設計。



実施後

- AIによるルート最適化モデルを参考に、実運行できる状態に整備。
- 最適モデル実現のため、得意先と納品条件見直しを商談。



特徴

- システム導入と現場の運用改善を合わせ、関係三者一体での協働効率化実現。
- AI活用による継続的な改善が可能で、チルド販売物流全体に波及することで今後も大きな効果を期待できる。
- 配送車両の適正化、ドライバー作業負担軽減を行うことで、物流事業者の労働環境改善にも寄与。

効果

- CO₂削減量：379.0t-CO₂/年（18%削減）
- 車両台数削減：4,745台/年（28%削減）
- 労働時間削減：25,185時間/年（18%削減）
- 年間積載率：71%（19%向上）

<事例>「ホワイト物流」推進運動への参加

江崎グリコは、国土交通省・経済産業省・農林水産省が提唱する「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、「ホワイト物流」推進運動事務局に自主行動宣言を提出しています。「ホワイト物流」推進運動とは、深刻化する運転手不足に対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に寄与することを目的とし、①トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化②女性や高齢の運転者等も働きやすい「ホワイト」な労働環境の実現に取り組むものです。今後も、物流事業者の皆様との相互理解の下に連携して、物流の効率化や生産性向上に向けた取り組みを進めていきます。

取組項目	取組内容
物流の改善提案と協力	長時間待機の削減や付随作業の是正等の物流改善について、物流事業者から要請があった場合には、真摯に協議に応じるとともに、着荷主（取引先）への働きかけを積極的に行います。
予約受付システムの導入	トラックの予約受付システムを導入し、荷待ち時間を短縮します。
パレット等の活用	パレット、カゴ台車、折りたたみコンテナ、通い箱等を活用し、荷役時間を削減します。
発荷主からの入出荷情報等の事前提供	発荷主として貨物を発送する場合に、物流事業者や着荷主の準備時間を確保するため、入荷情報等を早めに提供します。
リードタイムの延長	配車業務の安定化を図るため、着荷主（取引先）と協力し、受注から納品までのリードタイムの延長に取り組めます。
船舶や鉄道へのモーダルシフト	長距離輸送について、トラックからフェリーやRORO船、鉄道の利用への転換を行います。この際に、運送内容や費用負担についても必要な見直しを行います。
運送契約の書面化の推進	運送契約の書面化を推進します。
異常気象時等の運行の中止・中断等	台風、豪雨、豪雪等の異常気象が発生した際やその発生が見込まれる際には、無理な運送依頼を行いません。また、運転者の安全を確保するため、運行の中止・中断等が必要と物流事業者が判断した場合は、その判断を尊重します。
トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化	<ul style="list-style-type: none">・パレットへの積付け改善や増パレット車等のトラックの大型化により輸送の生産性を高めます。・物流部門だけでなく、調達、生産、セールス部門と連携し、End to Endの物流の効率化を図ります。
共同配送の推進	共同配送の展開を進め、積載率の向上、配送先の集約、配送頻度の削減等、配送の効率化に取り組めます。

<事例> 地球温暖化対策の推進に優れた「トップレベル事業所」として認定

北本工場は、埼玉県より地球温暖化対策の推進に優れた「トップレベル事業所」として認定されました。（2018年4月）2019年6月7日に世界銀行が主催する気候変動対策をテーマとする国際会議「Innovate 4 Climate」（シンガポール）で、各国におけるキャップアンドトレードに対する課題や取り組み状況説明が行われました。北本工場は「トップレベル事業所」の認定を受けていることから、埼玉県から推薦を受けて1名がパネラーとして参加し「設備投資だけでなく運用改善でも大きなCO₂排出削減が可能である」ことをアピールしました。



世界銀行主催による国際会議（I4C）でCO₂排出削減取り組み状況を説明

<事例> 公益社団法人 国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付

江崎グリコでは、エコパウチを使用したガムの販売代金の一部から公益社団法人 国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付をしています。この実績が評価され、農林水産大臣感謝状をいただきました。（2018年7月）

また、東京都の2050年CO₂排出実質ゼロを目指す「ゼロエミッション東京」の取り組みに賛同し、CO₂削減クレジット10,836tを東京都に寄付しました。（2020年1月）



エコパウチを使用したガム
「POs-Ca（ポスカ）」

<事例> 製造会社におけるVC活動

製造ラインを安定させることで高品質・低コストな生産体制や安全性の高い職場環境を実現するため、VC（Value Creation）活動を行っています。Glicoグループの製造会社等が集まり、VC活動の報告会を実施し、年1回優秀事例を表彰しています。



VC活動の報告会の様子

<事例> 時間外労働の削減

業務の生産性を上げることで、時間外労働の削減に努めています。この取り組みにより、時間外のエネルギー使用を削減することができます。

<事例> ペーパーレス化に向けた取り組み

Glicoグループでは、2018年1月より、業務効率化と生産性向上、資源の有効活用を目的とし、ペーパーレス化に取り組んでいます。

商品・サービスへの環境負荷低減

環境に配慮した商品企画・設計

Glicoグループでは、安全・安心な商品を提供するため、原材料をはじめとするさまざまな資源を使用しています。原材料の調達から製造、消費に至るまでの環境負荷を低減するため、開発・企画段階から環境に配慮した商品設計を行っています。

容器・包装への取り組み

品質向上を目指し、容器・包装の機能を追求するとともに、減量化による環境負荷の低減にも取り組んでいます。お客様が容器・包装を捨てる際に分別しやすいよう、商品には包装材の種類やリサイクルマークを表示しています。また、箱型商品については、小さくたためる加工を行い、家庭から排出されるゴミの体積を減らす工夫を行っています。

【取り組み事例】プラスチック使用量削減

<トレー>

2018年度より「アーモンドピーク」や「神戸ローストショコラ」のプラスチックトレーの軽量化に取り組み、2018年以降年間約4tを削減しています。



軽量化したプラスチックトレー

<外包装>

2022年より「ポッキー<8袋>」や「プリッツ<8袋>」の外包装の薄化に取り組み、従来比年間約42tを削減しています。



<ストロー>

石油系樹脂を原料としたストローから植物由来原料を5%配合したストローに変更したり、ストローを廃止し直接飲みやすい容器に変更したりして、環境対応型包材の導入を進めています。2022年からは、すべてのストローにおいて、植物由来素材を5%以上使用したストローを採用しています。



ストローの廃止



植物由来原料を配合したストローを導入

<シュリンクフィルム>

2021年3月より、「朝食りんごヨーグルト」のプラスチックカップ容器にラミネートしていたシュリンクフィルムを外し、容器に直接印刷する仕様に変えたことで、プラスチックの使用量を削減しています。また、2021年5月からは容器の一部原料をバイオプラスチックに置き換えています。この取り組みにより、年間で約24tのプラスチック使用量の削減につながる見込みです。



シュリンクフィルムを外したプラスチックカップ容器

<アイススティック>

2019年度より、「セブントーンアイス」のスティックの組成の10%を植物由来のバイオマスプラスチックに置換しました。「セブントーンアイス」のスティックには、サトウキビから作ったポリエチレンを使用しています。



バイオマスプラスチック化

【取り組み事例】森林認証紙の使用

世界的に森林破壊が問題になっており、適正に管理された森林から産出・加工された紙を使用することも企業として重要な取り組みの一つです。Glicoグループでは、FSC※1やPEFC※2などの国際的な森林認証団体から認証された環境配慮紙の使用を順次拡大しています。



責任ある森林管理のマーク

FSC® 認証紙を使用した商品 (一部)



PEFC 認証紙を使用した商品 (一部)



※1 FSC® (Forest Stewardship Council® : 森林管理協議会) とは、責任ある森林管理の普及を目指し、責任ある森林管理の規格を定め、国際的な森林認証制度を運営している非営利団体です。

※2 PEFC (PEFC森林認証プログラム) とは、「環境・森林を保護しつつ、同時に産業を繁栄させること」を目的に発足された森林認証システムです。

【取り組み事例】省エネルギー

「セブンティーンアイス」や飲料・デザートは、自動販売機でも販売しています。使用する自動販売機に真空断熱材を追加したり、LED照明に切り替える等して、計画的に省エネタイプに切り替えています。



省エネタイプの自動販売機

食品廃棄物削減に向けて

食品廃棄物削減については、「Glicoグループ環境ビジョン2050」でも取り組むべきテーマの1つとし、2050年までにサプライチェーンの効率化や需給予測精度の向上等、廃棄が発生しない取り組みに注力するほか、商品の微細な欠け等、品質に問題がない商品をふぞろい品としてアウトレット販売を行う等、食品廃棄物を95%削減（2015年度比）することを目指します。

商品関連の取り組み

ふぞろい品の販売

Glicoグループでは、高度な需給予測により過剰在庫を持たない取り組みや、商品に微細な欠け等、品質に問題のない商品をふぞろい品として、アウトレット販売を行う等により、食品ロス削減し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

※販売場所・時期については不定です。

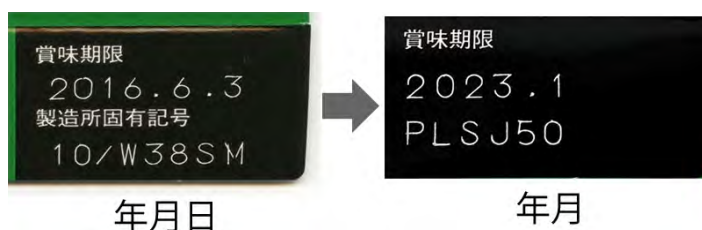


賞味期限の考え方

賞味期限とは、おいしく食べられる期限のことを表します。この期限を過ぎたらすぐに食べられなくなるというものではありません。Glicoグループでは製造管理、品質管理を徹底し、商品グループごとに賞味期限を設定しています。

賞味期限の延長と年月表示化

賞味期限が長い商品については、品質劣化のスピードが遅く、消費段階で日付管理をする意味が乏しいと考えられるため、日付で表示してきた賞味期限を年月表示に切り替えるよう取り組んできました。この取り組みは、食品ロス削減だけでなく、商品配送時・管理時の業務効率化にもつながっています。



カレー商品の賞味期限表示

Glicoの保存食「賞味期限お知らせシステム」

Glicoの保存食（ビスコ保存缶、カレー職人）の賞味期限が切れる前にメールでお知らせするサービスを提供しています。いざという時に必要な保存食を、賞味期限が切れる前に消費していただくよう促します。



リサイクルの取り組み

社内への啓発（神戸工場の食品リサイクル・ループ取り組み）

工場から排出される食品残渣で育てられた豚を社内の従業員向け食堂の食材として提供する「食品リサイクル・ループ」取り組みを定期的に行い、従業員の廃棄物対策への意識向上につなげています。また食品残渣から作られた肥料を「こどもびあ保育園」の家庭菜園で使用し、採れた野菜を保育園の昼食で提供しています。



粉ミルクのリサイクル取り組み

赤ちゃん用の粉ミルク「アイクレオ」を製造している柏原工場では、出荷数量の都合等により出荷できず廃棄されてしまう粉ミルクが発生していましたが、パン工房を運営する近隣の障がい者支援センターに提供し、ミルクパンの原料として活用いただいています。この協働取り組みは、従業員の喫食用にパン工房からパンの注文買取をしていたことがきっかけとなり、食品ロス削減のための新たなアイデアとして生まれました。



フードバンクへの寄贈の取り組み

食品メーカーとして、廃棄される食品を削減するため、製造工程で発生する廃棄物の削減に注力する等の取り組みの他、フードバンクへの商品寄贈を行っています。上海江崎グリコでは緑洲フードバンクと連携し、中国の貧困地域の小学生に商品を提供するとともに、食べ物を大切にする精神や良い食習慣に関する知識をお伝えしました。協働するフードバンク団体へのアプローチも行っており、2018年度から継続してコープ東北サンネット事業連合様にレトルト食品の寄付を行い、2022年度は1,890食を寄付しました。また、2020年1月には、仙台工場従業員がコープ東北サンネット事業連合の方とともに、寄付した商品を寄付先へ配達し、フードバンクの社会的重要性を実感しました。今後も、食品ロス削減に向けて、地域の皆さまと協働しながら進めていきます。



コープ東北サンネット事業連合との取り組み（左）・緑洲フードバンクでボランティア活動をしている様子（右）

工場での取り組み

Glicoグループでは従来から、工場における「ゼロエミッション（生産活動から出る廃棄物のうち最終処分（埋め立て処分）する量をゼロにすること）」を目標に取り組んでいます。日本の食品リサイクル法で定められた食品製造業のリサイクル率目標は現在95%と定められていますが、日本国内工場の平均リサイクル率は、2013年以降95%達成を継続しています。工場はロスの発生抑制が最優先ですが、発生した食品廃棄物についてはその性質を考慮しながら適切なリサイクル方法を検討し、飼料・たい肥等の原材料としての利用や、メタン発酵によるガスや発電エネルギーの利用等、さまざまな形で循環資源として活用されています。



啓発活動

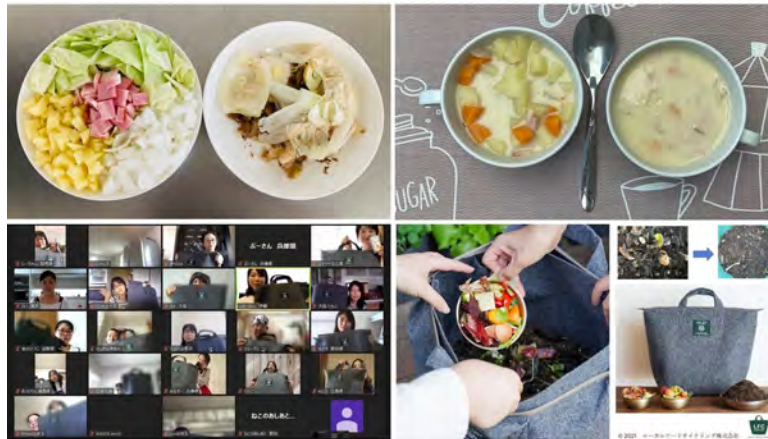
食品ロス削減をテーマにしたレシピ募集

Glicoの会員サイトwith Glicoの「レシピクラブ」は、Glico商品を使い手軽に作れるレシピを掲載しているコンテンツです。沢山のレシピの中から、#火を使わない #食品ロス対策などのキーワードで検索し、お好みのレシピを探すことができます。また、2022年10月の食品ロス削減月間では、残った食材の活用をテーマにレシピ投稿キャンペーンを実施し、会員様から多数のアイデアレシピをいただきました。レシピはサイト上でいつでもアクセスでき、継続して食品ロス削減を実践していただく機会を提供しています。



食品ロス削減実践ファンミーティング

Glicoの会員サイトwith Glicoにて、2021年から食品廃棄物削減をコンセプトにしたファンミーティングを実施しています。2021年は、食品ロスについて学んでいただいたり、冷蔵庫に残った食材をおいしくアレンジできるレシピを、オンライン料理会で実践する試みを行いました。2022年は、家庭から出る食品廃棄物（生ごみ）を堆肥として再利用できるコンポストを実践し、「食の循環」を体感いただきました。参加者の皆さまからは「新しい気づきがあった」「今後の生活に活かしたい」といった声もいただきました。今後もGlicoグループでは消費者の方にも楽しく食品廃棄物削減に取り組んでいただけるような活動を目指していきます。



冷蔵庫の中にある残り野菜を使ったアーモンドミルクスープ料理体験とコンポストキットを使ったコンポスト体験
<出典：LFCコンポスト／画像提供：ローカルフードサイクリング株式会社>

社内への啓発（ろすのんテーブルトップ設置）

もったいない活動の意識づけのため、食堂やサロンに啓発のためのテーブルトップを設置しています。



国連WFP「世界食料デーキャンペーン ゼロハンガーチャレンジ」への協賛

「ゼロハンガーチャレンジ 食品ロス×飢餓ゼロ」キャンペーンは、「食品ロス削減の取り組みで、途上国の子どもたちに給食を届けよう！」をコンセプトとした取り組みで、全ての人が食べられる世界「ゼロハンガー」を目指し、「食品ロス削減」の取り組みを、飢餓に苦しむ途上国の子どもたちの学校給食支援につなげます。Glicoグループは、この取り組みに賛同し、協賛しています。

資源の有効活用

環境に配慮された原材料・包装材料の調達

環境配慮された原材料の調達を進めるとともに、原材料が納入される際の梱包材についても環境配慮されたものを使用しています。また、環境配慮型プラスチックや紙、インクの採用も進めています。

製品原料の集約化（効率的な調達・使用）

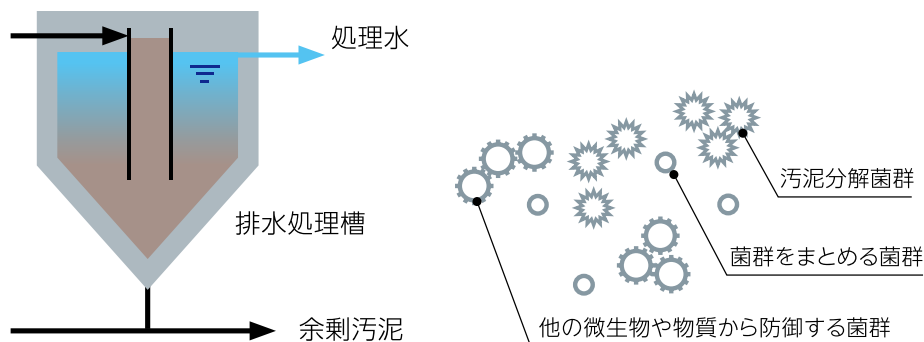
「おいしさ」や「健康」にこだわり、品質を追求するための原料研究を進める一方で、効率的で無駄のない製造を行うために、原料数の集約も進めています。

水資源の管理と資源循環

Glicoグループでは、一部の工場において、排水を冷凍設備の冷却に再利用する等、水資源の使用量削減に取り組んでいます。

排水処理技術の向上

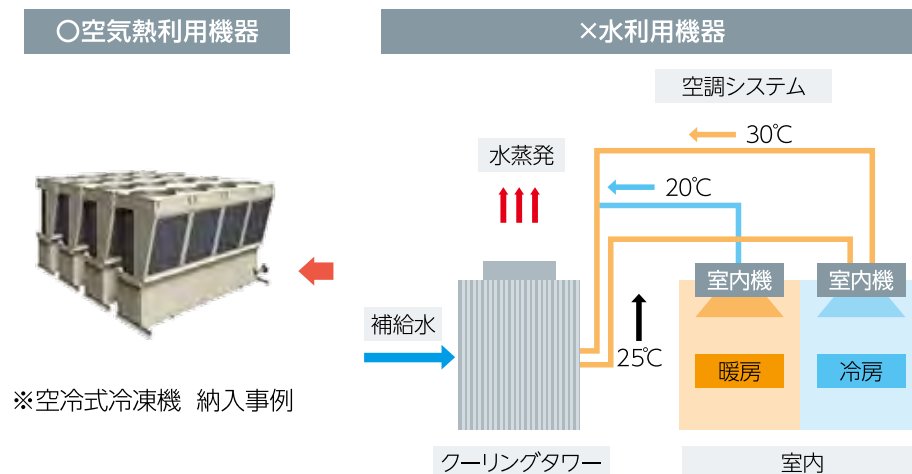
工場で発生した汚水は各工場の排水処理場で放流基準値まで浄化し放流しています。工場では好気性微生物を利用した活性汚泥法を用いて水中の有機物を処理しているため、余剰汚泥が産業廃棄物として発生します（約3,000t/年）。2020年度より、高度な水処理技術を研究し導入することで、排水処理時の産業廃棄物である汚泥の発生抑制および排水処理能力向上につなげており、2021年度より各工場への展開を進めています。



水の使用量削減

水による冷却を必要とするシステムを搭載した空調機器は、クーリングタワーと呼ばれる設備で気化熱を利用し熱交換を行うため、供給した水が蒸発してしまいます。菓子工場では、上水使用量の約半分がクーリングタワーの補給水です。

そこで2020年度より、工場での空調機器の選定時には、水による冷却を必要としない「高効率空冷式冷凍機」の採用を推奨し、設備投資計画での老朽化更新や新設時には空冷式を積極採用しています。



ゼロエミッション達成に向けた取り組み

事業活動により発生した廃棄物については、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の観点でゼロエミッションを推進しています。

※焼却時に廃熱回収、あるいは焼却灰が有効利用された場合は再資源化に含みます。廃棄物リサイクル率99.5%以上をもってゼロエミッション達成としています。

製造会社

- 生産効率の向上を図り、工程で発生するロスの削減や生産の合理化等の各種活動により、廃棄物となる原材料や製品を削減しています。
- 工場に納入される原材料はその特性に応じてさまざまな包材で梱包されています。Glicoグループは取引先と協力して、原材料を輸送する際の容器のリユース化や過剰包装の廃止に取り組み、原材料の品質を確保しながら梱包材を削減する努力をしています。

<事例>資源の有効活用

神戸工場では2019年3月より、従来RPF（ボイラー用固形燃料）としてリサイクルしていた「ビニール重袋」を段ボールメーカーと協力し自社製品の段ボール原紙の一部に再利用しています。

また2022年1月からは工場が発生したダンボールも同様に再生処理されたものを神戸工場で使用するリサイクルループを開始しています。



本社部門・研究部門

詳細な分別基準に基づく分別ステーションの設置により、「ゴミ」を捨てるという意識から、再資源化の分別をするという意識に変わりました。現在は、オフィスでの働き方の見直しやペーパーレス取り組みを進めながら、廃棄物自体の削減に取り組んでいます。

セールス部門

江崎グリコのセールス部門で発生する廃棄商品については、2002年度から再資源化に取り組み、飼料や肥料へのリサイクルを進めています。スーパーマーケット等で使用する販売促進品も廃棄量が多いため、計画的な使用計画を立て、資源を無駄にすることがないように取り組んでいます。

社会とともに

事業を通じて、笑顔あふれる社会の実現に貢献します。



【品質保証】品質への想い・こだわり

Glicoグループの「品質」へのこだわりは、原料調達から生産・流通を通じて製品がお客様に届くまで一貫して安全・安心を保証すること、またお客様満足を意識した製品やサービスの品質向上を日々行うことにあります。

そのためには、私たち従業員一人ひとりが高い問題意識を持ち、自発的に日々の改善に努め、そしてそれを継続することが重要であり、品質方針である『品質最優先』の具現化を愚直に行っていくことでGlico品質を実現していきます。

Glicoグループ品質方針

Glicoグループでは、世界中のお客様により安全で安心できる商品・サービスをお届けするうえで、グループの姿勢を明確にし、活動の指針とするため品質方針を定めています。全社員のみならず、お客様や取引先をはじめとする全てのステークホルダーのご理解とご協力をいただきながら、活動を推進しています。

私たちは、より安全で安心いただける商品・サービスを、世界中のお客様にお届けすることをお約束します。

1. お客様満足の向上

- お客様の声に真摯に耳を傾け、誠実に対応し、品質とお客様満足の向上を継続的に推進します。

2. 安全・安心

- 原材料の調達から販売までの全ての活動において、品質最優先で取り組み、安全でお客様に安心いただける商品・サービスを提供します。

3. 法令遵守

- 商品・サービスに関連する全ての法令を遵守します。

4. 情報開示

- お客様の立場に立って、正確な情報を誠実に分かりやすくお届けし、信頼いただけるよう努めます。

5. 継続的な改善

- グローバルな品質・食品安全マネジメントシステムの考え方にに基づき商品の安全を確保し、より良い品質を追求し続けます。

以上の項目をGlicoグループの全従業員が理解し、実行します。

制定 2020年9月
改訂 2023年1月

「おいしさ」を保証するために

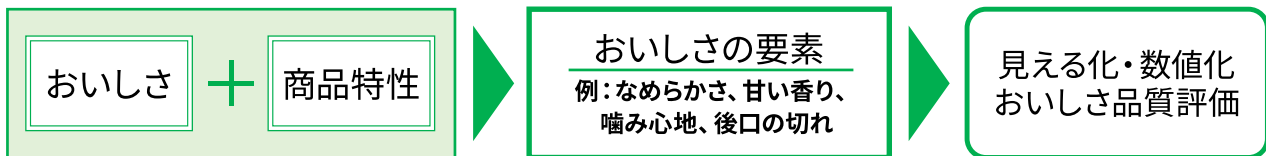
今日Glico商品を召し上がったお客様が感じられた「おいしさ」、そしてこれからGlicoが発売する商品の「おいしさ」を向上させるために、商品設計部門、製造部門など全てのバリューチェーンにてお客様の声に耳を傾け、さらなる品質改良・向上につなげてまいります。



おいしさ品質の見える化・数値化

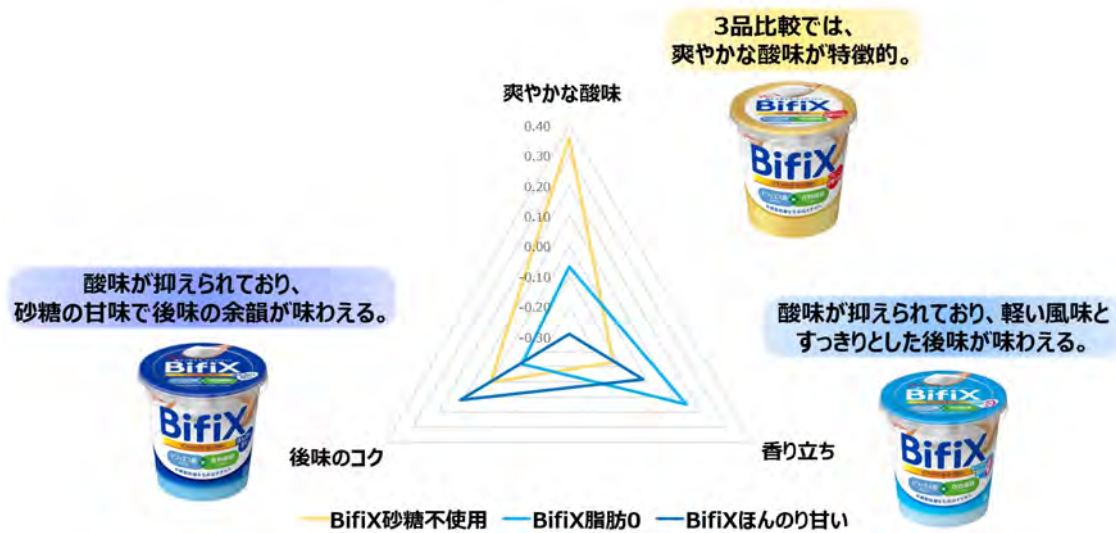
「おいしさ」を要素に分けて評価する

グループ品質保証部では、おいしさの品質保証力を強化すべく、分析機器を活用して「おいしさ品質の見える化・数値化」に取り組んでいます。具体的には、機器分析力を生かして、「カテゴリー毎の商品特性により感じられるおいしさ」や「その商品の特長に基づくおいしさ」を見える化・数値化し、製品の設計品質や製造品質の向上に取り組んでいます。



<事例①> 「Bifixヨーグルト」3品の風味特徴

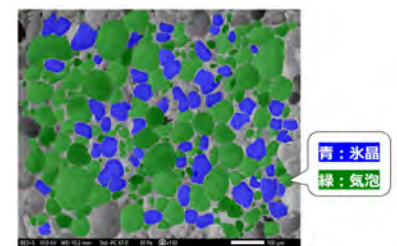
「Bifixヨーグルト」3品において、それぞれ異なる風味特徴があり、幅広いお客様の嗜好に対応できます。



味覚センサーでの比較

<事例②> アイスクリームのマイクロ観察

アイスクリームの氷結晶や気泡の大きさや形状を調べ、なめらかさ等の食感を比較します。



【品質保証】安全・安心への取り組み

お客様に安全で安心な品質の商品をお届けする為に、法令等を遵守し、商品の設計から原材料の選定・購入、衛生的な工場での製造、温度管理された輸送・保管、販売店での鮮度管理まで、お客様が商品をお手にとられるまでの全てのステップにおいて、お客様の立場に立って、安全・安心を日々、追及してまいります。

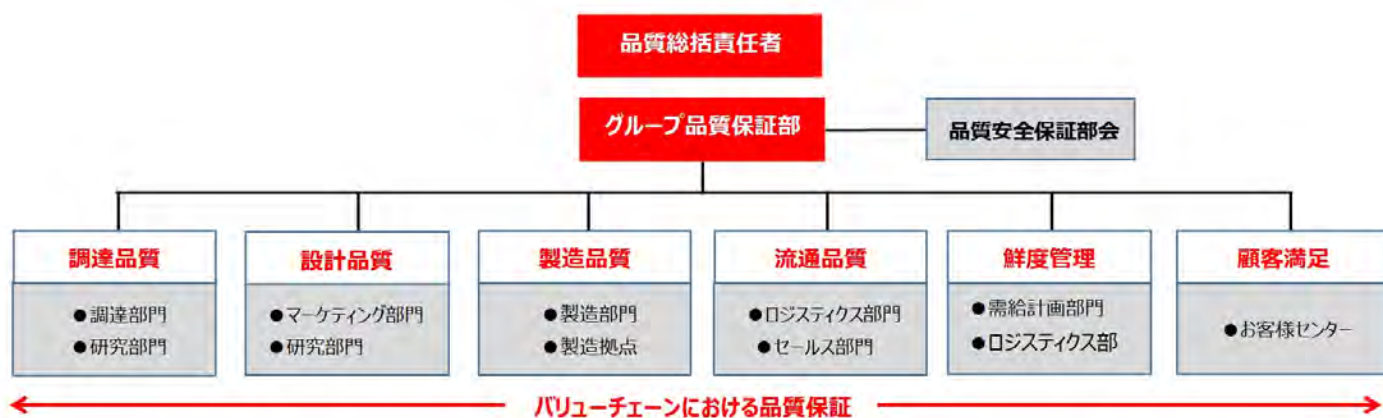
品質保証体制・取り組み

江崎グリコはお客様最優先の品質方針を基に、全社で品質向上活動に取り組んでおります。

グループ品質保証部は全社、特にバリューチェーンを担当する各部門（セールス部門、マーケティング部門、製造部門、調達部門、研究部門、グリコお客様センター）と連携し、品質保証システムの維持・向上に取り組んでいます。具体的には、以下のような取り組みを行っています。

1. 各プロセスでの品質保証に関する責任の所在を明らかにし、商品の開発から製造、広告、販売促進活動を含め、お客様の手に渡るまで、全ての段階における品質保証業務が円滑に進むようにシステムの構築・改善に努めています。
2. 原材料の採用、工場および倉庫の選定基準を制定し、品質監査は社内試験に合格した専門資格を有する監査員が実施しています。
3. 食品安全マネジメントシステムFSSC22000認証を製造拠点ごとに取得し、各拠点の内部監査は社内ライセンス資格を取得した有資格者が製品や製造環境による品質リスク要因を抽出し、継続的な改善を行っています。
4. 国内外の行政や社会の動向をキャッチし、法律や制度の改正に速やかな対応を行い食品の安全・安心に関するリスクの予測と予防的な対応を実行するために品質リスク情報管理システムを構築し運営しております。
5. グローバルスタンダードに合致した品質保証体制とするために、CODEX等に準拠した品質保証活動を推進しています。
6. お客様のご意見を商品・サービスに反映させるために、毎朝、前日までの品質に関するお客様からのお申し出内容に関係部門で確認し、品質向上に活かしています。
7. 全従業員に品質最優先の文化を醸成し、実行させるためにさまざまな教育・訓練を行っています。

品質保証体制図



品質保証マネジメントシステム（Quality Assurance Management System）

江崎グリコは2020年度に「品質保証体制については、バリューチェーン全体で強化し、価値創出に取り組む」ことを決めました。これに伴い、江崎グリコは品質方針を宣言し、全部門はこの品質方針を達成するために「品質価値」の創造に向けた活動を推進しています。「品質価値」の創造とは、品質トラブル再発防止活動だけでなく、おいしさ品質向上、未然防止型品質保証等を目的とした施策を計画、実行することで品質リスクの最小化を図り、お客様へ安心、安全をお届けすることで顧客満足度を高め、品質保証を「品質価値」まで高めることです。品質価値の創造に向け、江崎グリコの製造工場は食品安全マネジメントシステムFSSC22000認証を通じて食品安全・品質保証の継続的改善に取り組んでいます。また、本社各部門は担当分野での「品質価値」に関する「品質宣言」を行い、品質価値向上活動プランを策定、実行することで品質価値の創造を実践しています。この活動は、各部門が活動内容を定期的に報告し、活動の妥当性を評価し、改善すべき課題を明確にして修正、是正を指示するPDCAサイクルの中で継続的改善を行う「品質保証マネジメントシステム（QAMS：Quality Assurance Management System）」として進めています。また、江崎グリコの品質保証全般については、毎年実施するマネジメントレビューにおいて品質保証マネジメントシステムの有効性の検証を行っています。この過程で明らかになった改善すべき課題に優先的に取り組むことでシステムを良好な状態に維持しつつ、品質価値をさらに高めることを目指しています。

品質リスク情報管理システム

Glicoグループでは、企業経営に重大な影響を及ぼす品質上のリスクを最小限に抑えるため、潜在的リスクを早期に把握し、その影響を事前に回避もしくは事後に最小化する対策を講じる未然防止型の品質保証体制の構築を目指しています。この未然防止型の品質保証体制を構築することにより、リスク（課題）が顕在化する前に「対策済み」となっている状態を目指して、①品質リスク情報を収集・特定（Risk Identification）し、②収集した情報の影響度を分析・評価（Risk Assessment）を行い、品質リスクがあると判断した場合は③リスク除去・発生防止・低減化（Risk Countermeasure）を行います。

具体的には①情報が多岐・多様化している情報化社会の中で、国内外を問わず日々発信される情報の中から、Glicoグループにとって品質リスクと成り得る情報を収集します。②収集した情報がGlicoグループにとって品質リスクとなるか否かを分析（Risk Analysis）したうえで、対応の必要性を評価します。③対応が必要であると判断した場合、対策を協議し各部署が連携して対策を実行します。このサイクルを回すことによって得られた有用な情報はデータベース化することでナレッジとして蓄積し、社内の課題管理システムとして活用しています。

調達品質

原料の安全について

原材料の選定

Glicoグループ基準に合致した品質を確保できる取引先を選定し、事前に法令合致、原材料の詳細が記述された安全性を保証する「原料納入規格書」を作成し、取引先と共有することで、安全な原材料の供給が受けられる体制を整備しています。また、残留農薬、遺伝子組み換え作物、アレルギー物質等のチェックを行っています。



アレルギー検査（左）・安全性理化学検査（右）

原材料調達・納入

製造拠点単位でFSSC22000に基づき定めた食品安全マニュアルを順守しています。原材料受け入れ時には、温度、表示、外観等を厳重に確認します。さらに、使用直前にも全ての原材料の品質を確認の上、使用します。また、原材料にはバーコード付与等を行いながら、使用履歴を追跡できる仕組みを構築しています。



製造品質

製造施設・設備管理

品質基準に沿って、衛生、温度、湿度、入数過不足、包装・印刷不良等の管理や異物混入防止等に努めています。製造設備に起因する品質トラブルの防止のため「機械設計基準書」を設け、設備導入時に基準に合致していることを入念にチェックしています。

品質指導・監査員資格制度

当社では、原料メーカーや包材メーカー、製造委託先の工場、物流委託先の倉庫を訪問し、品質保証体制についての監査や改善点についての指導を行っています。こうした活動が有効に機能するよう、社内資格制度を設け、資格を保有している者だけが、取引先の品質指導・監査を実施する仕組みを構築しています。この資格は、食品衛生に関する法令、Glicoグループの社内基準、FSSC22000の規格に基づく監査のチェックポイント等、必要な専門知識を習得できる学習プログラムを修了し、試験に合格した者だけに付与されるものとなっています。また、この資格には2年間の有効期間があり、更新時には再度学習プログラムの修了、試験の合格が必要となりますので、資格保有者は常に最新の知識を習得していることを要求されます。

設計品質

「設計品質」の継続的改善と「日々の製品品質」の確保

加速試験等、市場保存性を中心とするチェックを行い設計品質の継続的改善に努めています。製造段階においても、出荷前検査により設計品質通りに製造されていることを確認しています。

〈設計品質チェック項目例〉

- 風味・食感
- 外観
- 微生物
- 油脂の酸化（光・酸素）
- 温度耐性（溶け・ブルーム）
- 水分値・水分活性
- 輸送強度等



微生物検査（左）・官能検査（右）

品質教育方針

- 品質教育は、品質文化を醸成するために、品質保証体制の基盤として実施しています。
- 品質教育は、全従業員の品質意識の向上を目的とし、継続的に実施することで「品質最優先」の意識定着を確実なものにします。
- 品質教育は、品質意識の高い人財を育成することで、「品質保証」を「品質価値」に変える製品・サービスを提供できる組織を目指します。

流通品質

輸送・保管品質

輸送品質

物流事業者とともに、トレーサビリティの確保、トラブル改善、フードディフェンス等に取り組み、お客様にお届けするまでの商品の保護に努めています。

保管品質

倉庫での保管中も同様の手法で商品の保護に努めるとともに、適切な在庫管理により、Glicoグループ基準に合致した商品だけを市場に出荷しています。

鮮度管理

商品の鮮度管理は、セールスの重要な仕事の一つです。具体的には、日々売り場を回り、陳列状態の確認や賞味期限の確認を行っています。また、商品を安全・安心にお店に陳列していただくために、セールス部門の従業員は講座を通じて商品取り扱い知識を習得しています。また、需給計画部門では販売需要予測を、ロジスティクス部門では確実に管理された製品保管・輸送を実行することにより、適切な温度で鮮度を保った管理を行っています。

商品取り扱い知識講座

菓子、アイスクリーム、チルド商品などGlicoグループが製造・販売する製品のカテゴリーは多岐に渡ります。これらの製品の原料や製造方法をはじめ、商品特性に応じた品質管理ポイント等、セールス部門の従業員が必要とする知識を習得できるようにe-ラーニングシステムによる知識講座を実施しています。この講座はいつでも、繰り返し学べ、セールス部門の従業員はここで学んだ知識を流通品質および鮮度管理を向上させるために活用しています。

顧客満足品質

品質が良いとは、「お客様が満足される商品・サービスをご提供できていること」だとGlicoグループでは考えています。お客様からお申し出いただいた声を拝聴し、お褒めの言葉だけでなく厳しいお言葉に対しては反省し、より良い商品・サービスをご提供させていただく為に、全部門で共有し、改善活動を推進しています。この活動には終わりはなく、お客様のご期待にお応えできるように日々努力を重ねてまいります。

海外拠点の品質ルール

食は地域に密着したものであることから、Glicoグループでは各国の法規の順守はもちろんのこと、その国の文化やお客様の嗜好に合わせた製品をお届けすることを目指しています。しかし、食品安全や品質保証には国境はなく、Glicoグループでは日本の徹底した品質管理を全ての製品に適用して高い品質と安全性を確保しています。具体的には、原材料購買から製品配送に至るまで品質保証マネジメントを実践し、特に製造時の食品安全保証のために、全てのGlicoグループの工場※でGFSI（Global Food Safety Initiative）認証を取得し、いつも一定した品質の製品を安心して召し上がっていただけるよう努めています。さらに、各国の品質担当部署と日本のグループ品質保証部が協力して、より高いレベルの品質を目指して改善を続けています。

※一部関係会社を除く

お客様満足のために

お客様視点の課題解決

乳児用ミルクをはじめ、乳幼児や児童も対象としたさまざまな商品を販売しています。このため、品質に対するお客様の要求はハイレベルです。お客様センターでは、お客様に寄り添い、共感して、困りごとを全力で解決することを何よりも大切にしています。

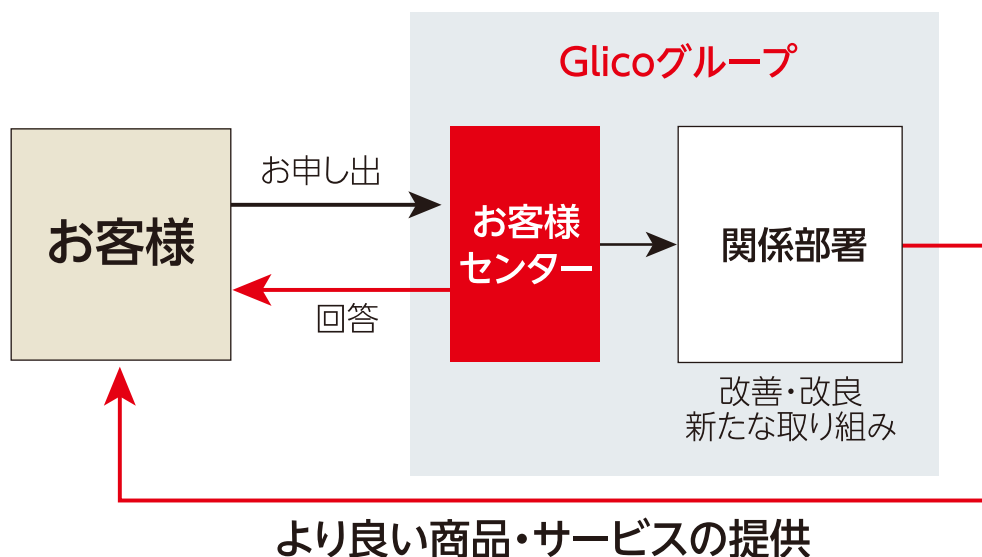
お客様センター

年間約3万件の電話、メール、手紙でのお申し出をいただいています。ご相談には、迅速、丁寧、かつ誠意をもって対応し、正確な情報を提供しています。

商品・サービスの改善・改良

お客様からいただいたお申し出を社内で共有し、商品・サービスの改善・改良に活かしています。また、お客様の声がかっかけとなって新たな取り組みも生まれています。

<お客様の声の活用>



自主回収件数

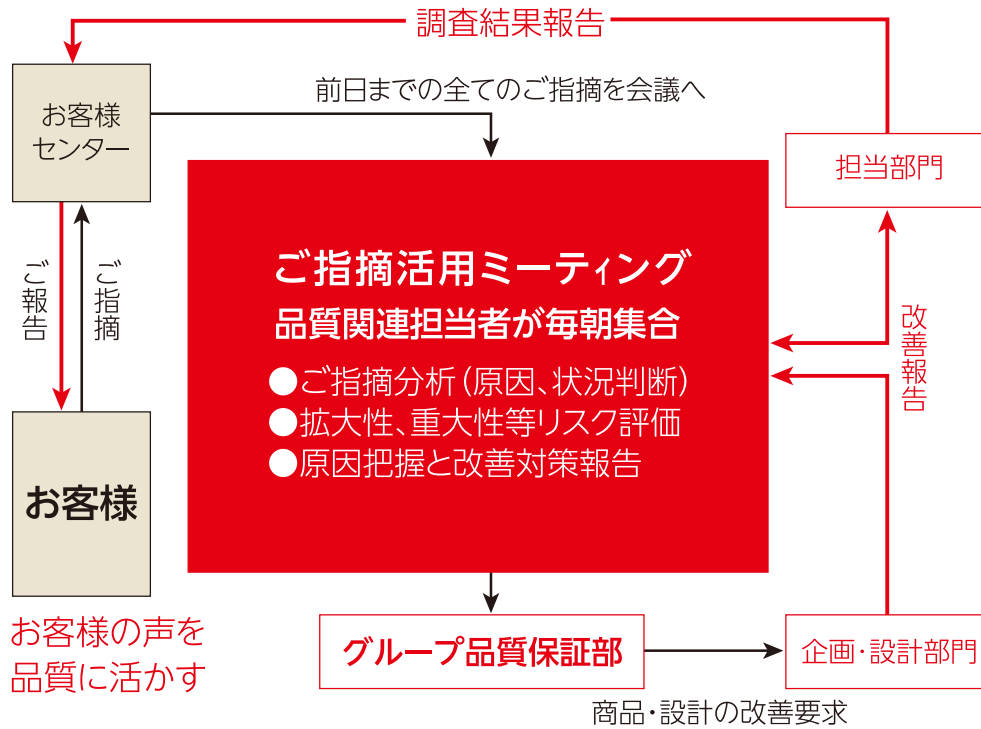
Glicoグループは、品質トラブルに対して原因究明を行い、品質向上に取り組んでいます。品質に関するトラブルが発生した場合には、グループで共有し、再発防止に努めています。

自主回収件数の推移

年	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
件数	0	1	0	0	0	2

ご指摘活用ミーティング

毎朝、品質保証部門、製造部門等の品質関係担当者が集まり、前日にお客様センターに寄せられたご指摘を精査しています。精査した内容は、製造会社、企画部門、研究部門にフィードバックし、迅速な対応を行っています。



お客様対応品質の向上

JIS Q 10002:2005（品質マネジメント-顧客満足-組織における苦情対応のための指針）への自己適合宣言を行い、お客様対応品質の向上のため日々改善を重ねています。また、電話対応の研修を実施するとともに、乳幼児へのミルクの飲ませ方、加工食品の調理方法、スポーツサプリメントの摂取方法等、多岐にわたるお問い合わせに備え、多様な知識の習得にも努めています。

<知識向上のためにコミュニケーターが所有する資格例>

- 消費生活アドバイザー
- 食品表示検定（中級）
- 電話応対技能検定（3級）
- 栄養士
- 子育てアドバイザー
- NR・サプリメントアドバイザー

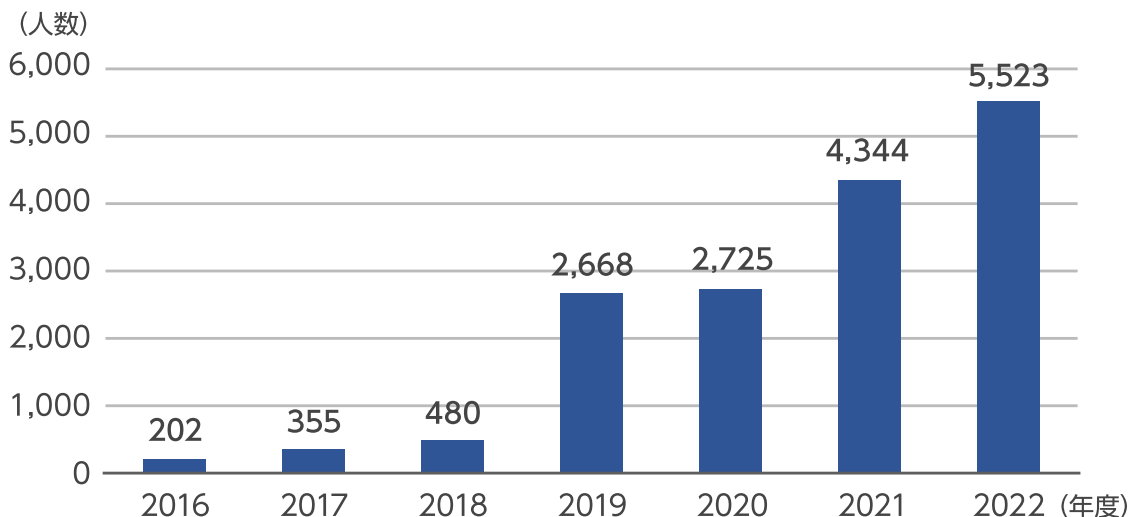
お客様センター体験研修

従業員に、“お客様と話して「心が動く・感じる」時”を提供し、お客様志向を醸成する活動を展開しています。オペレーターとしてお客様のお申し出に対応する「お客様センター体験研修」もその一つです。実際に受け応えることで、真にお客様の気持ちに寄り添うことの大切さ等を体感し、お客様視点で品質を考える意識の向上に努めています。2021年度以降は、オンラインでの研修を実施しています。今後、対象を全グループ従業員に拡大し、実施する予定です。



お客様センター体験研修（受電研修）

<お客様センター体験研修受講者数推移> (累計)



お客様センター体験研修受講者数推移グラフ

チャットボットを活用した販売店検索システムの導入

お客様からの商品に関するお問い合わせに対し、迅速に回答できるよう、2020年よりチャットボットを活用した販売店検索システムを導入しました。営業時間外でもお客様自身が販売店舗を検索できるようにすることで、顧客満足度の向上を図るとともに、お客様センターの電話対応をWEBサイト上の検索にシフトさせることによる業務効率化にもつなげています。

グローバルコンタクトフォームの作成

海外各国のお客様からのお問い合わせにお応えするため、Glicoグループ共通のグローバルコンタクトフォームを作成しました。英語、または事業所所在国においては現地で使用されている主な言語を用いて対応することで、お客様に寄り添い迅速に対応できるようにしました。

情報提供品質の向上

商品に関する情報をお伝えするために、商品パッケージの表示をできるだけ分かりやすいものとするに努めています。商品開発時に十分な検討を行うことはもちろん、発売後も常にお客様の声に耳を傾け、迅速に改善を図っています。

分かりやすい商品表示

法令や業界基準に加え社内でも基準を設けて、お客様の立場に立った安心、適切で分かりやすい表示に努めています。

お客様への情報発信

お客様センターは、お客様においしく召し上がっていただきたいという想いから、チョコレートやカレー、食育について解説するリーフレットを発行しています。



リーフレット

安全・安心につながる情報の掲載

お客様ご自身がいつでもWEBサイトから商品の栄養成分等の情報を取得できるよう、商品ページに栄養成分表示、原材料名等の情報掲載を順次拡大中です。安全・安心につながる情報を積極的に掲載し、利便性と顧客満足度の向上に努めています。

バランスのよい食生活の実現と健康づくりのための「栄養成分ナビゲーター」

WEBサイト「栄養成分ナビゲーター」は、簡単な操作で、知りたい栄養成分情報をリアルタイムで取り出すことができるシステムです。1996年に開設後、知りたい食品の栄養成分情報を手軽に取り出すことができ、専門知識がなくとも分かりやすく詳しい情報が得られると、消費者はもちろん栄養士の方々にもご利用いただいております。お客様のバランスのよい食生活の実現と健康づくりのために貢献しています。



WEBサイト「栄養成分ナビゲーター」

お客様の声を活かした改善

商品開発した事例

「植物生まれのプッチンプリン」



<お客様の声>

卵・乳アレルギーをもっている人でも、周りのみんなとおいしく食べられるプリンはありませんか？

<改良点>

卵や乳などの動物原料を一切使用せず、植物原料で作ったプリンを2020年3月から販売を開始しました。お客様からは「アレルギーの子どもに、はじめてプリンを食べさせてあげることができた」「一緒に“プッチン”できてうれしかった」などの嬉しいお声をたくさんいただきました。

※アレルギーフリーではありません。

※原材料に含まれるアレルギー物質（28品目中）大豆・アーモンドが含まれております。

「セブティーンアイス グレープシャーベット・サイダー」



<お客様の声>

友達と同じものを食べたいのに、自販機は全て乳成分入りのアイスばかりです。どうか1種類だけでも乳アレルギーの子どもでも食べられるアイスを作ってください。

<改良点>

お客様の声にお応えして、2018年5月28日より、乳成分を含まない商品の発売を開始しました。自販機の商品パネルにて、「原材料に含まれるアレルギー物質（28品目中）該当なし」の表示があることを確認した上で、お買い求めください。なお、本品製造ラインでは乳成分を含む製品を製造しています。

※商品ラインナップは自販機により異なり、一部取り扱いのない場合があります。

お客様から「グレープシャーベットがアレルギー物質が含まれなくなったと知り、初めて娘に食べさせる事が出来ました。喜ぶ顔が見られて、とても嬉しかったです。ありがとうございます。」との嬉しいお声をいただきました。

パッケージデザイン・表示の改善

アレルギーのコンタミ表示をわかりやすく改善しました



<お客様の声>

アレルギー表示のところに、「該当なし」と書いてあるのですが、ラインコンタミ※1が分かりません。

<改良点>

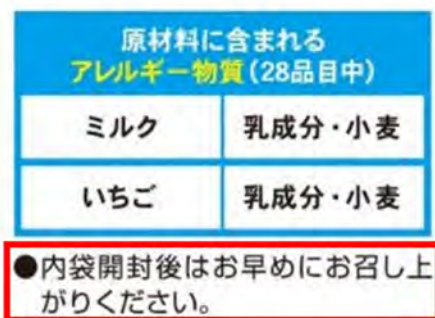
ラインコンタミも表示していましたが、アレルギー親切表示※2とラインコンタミを別々に表示していたため分り難くなっていました。

ラインコンタミ表示をアレルギー親切表示の下にセットで表示するように変更しました。

※1 ラインコンタミ：製造ラインでのコンタミネーション注意喚起表示のことで、パッケージに「本品製造ラインでは〇〇を含む製品を生産しています。」などと表記します。「コンタミネーション」とは、原材料として使用していない場合でも、製造工場内で意図しない混入が生じることを指します。Glicoでは、特定原材料7品目のアレルギー物質を表示しています。

※2 アレルギー親切表示：製品に入っているアレルギー（特定原材料等28品目）を原材料名欄で示すだけでなく、別枠を設けて一目で分かるようにした表示のことです。

「ビスコ」など大袋商品の賞味期限対象の明確化



<お客様の声>

「ビスコ<アソートパック>大袋」を開けても賞味期限は大丈夫ですか？
「開封後はお早めにお召し上がりください」とは、大袋、個包装の袋のどちらをさしているんですか？

<改良点>

賞味期限保証対象が内袋、外袋どちらでされているのかをわかりやすくお伝えするように、「内袋開封後」、「外袋開封後」と対象を明確に表示するようにしました。

「シャルウィ? <発酵バター薫るショートブレッド>」へのマカダミアナッツの使用について



賞味期限表示(11枚入り)	●開封後はお早めにお召し上がりください。
エネルギー	51 kcal
たんぱく質	0.5g
脂質	3.1g
炭水化物	5.3g
食塩相当量	0.041g



<お客様の声>

「シャルウィ? <発酵バター薫るショートブレッド>」を子どもが食べて、アレルギー症状が出ました。

<改良点>

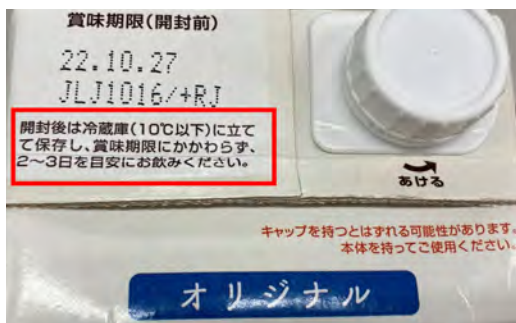
原材料表示には、マカダミアナッツパウダーの表示がありますが、マカダミアナッツはアレルギー物質28品目に入っていないため、アレルギー親切表示の対象外となっています。マカダミアナッツが入っていると気づかずに召し上がるケースもありました。

2022年1月、マカダミアナッツの注意喚起表示の追加を実施しました。

- 外箱：両面にマカダミアナッツ9%を追記しました。
- 外箱側面：「●製品表面の黒い粒は、マカダミアナッツパウダーです。」を赤文字の表示に変更しました。
- 内袋裏面：ラインコンタミ表示※1、発酵バター31%、マカダミアナッツ9%を追記しました。

※1 ラインコンタミ：製造ラインでのコンタミネーション注意喚起表示のことで、パッケージに「本品製造ラインではooを含む製品を生産しています。」などと表記します。「コンタミネーション」とは、原材料として使用していない場合でも、製造工場内で意図しない混入が生じることを指します。Glicoでは、特定原材料7品目のアレルギー物質を表示しています。

「アーモンド効果1000ml」の開封後消費基準の表示について



<お客様の声>

「アーモンド効果1000ml」のパッケージには、「開封後はできるだけお早目にお飲みください。」と記載されていますが、何日で飲み切ったらいいですか？

<改良点>

「開封後はできるだけお早目にお飲みください。」と表示していますが、具体的な基準は表示していませんでした。このためお問い合わせを多くいただきました。未開封時の賞味期限が長いので、牛乳などのデイリーな商品とは違って、開封後も長く持つのではないかと勘違いされるお客様もおられました。

2022年3月下旬発売品から賞味期限印字欄の下に、「開封後は冷蔵庫（10℃以下）に立てて保存し、賞味期限にかかわらず、2～3日を目安にお飲みください。」と具体的な基準をパッケージに表示しました。

開封後の飲食日数目安を表示

カレー、シチュー、ルー商品の品名を賞味期限表示と同一面に記載



商品名と賞味期限を同一面に配置

<お客様の声>

「クレアおばさんのクリームシチュー」や「プレミアム熟カレー」のパッケージの収納を縦長方向で積み重ねて保管しています。重ねたときに一目瞭然に何の商品なのかを管理したいです。古い方から使いたいのので賞味期限の面を上にして並べていますが、商品名がわからないので不便です。

<改良点>

商品名・賞味期限の配置がブランドによってバラバラになっていました。「ZEPPIN」シリーズのみ正面デザインに対して右側側面に商品名と賞味期限が配置されていました。

2022年3月より、「プレミアム熟」シリーズ、「クレアおばさん」シリーズも「ZEPPIN」シリーズ同様に正面デザインに対して右側面に、商品名と賞味期限を配置しました。

「DONBURI亭」「菜彩亭」「レトルトカレーLEE」のアルミパウチ袋



<お客様の声>

外箱を捨ててしまいました。中のアルミの袋には作り方が書いてありません。温める時間は何分くらいですか？

<改良点>

お客様が外箱を捨ててしまっても最低限度の調理方法がわかるように、アルミパウチのデザイン変更を実施しました。作り方や中袋のアルミパウチのまま電子レンジで加熱しないように等の注意事項も記載しました。2020年1月下旬の生産品から順次切り替えています。

ルー商品「プレミアム熟カレー」、「プレミアム熟ハヤシ」



<お客様の声>

パッケージを捨ててトレイだけで保存すると、賞味期限が分かりません。トレイにも賞味期限を書いてほしい。

<改良点>

2018年2月生産分より、1皿ずつのトレイに賞味期限印字を開始しました。使い残しや1皿用の利用に便利な「らくわけトレイ」がより使いやすくなりました。また、「クレアおばさん」シリーズ、「ZEPPIN」シリーズのルー商品の各トレイも、賞味期限印字品に切り替えました。

お客様から「個包装に賞味期限が印刷してある！ありがたいです。これから、より便利に使えます。驚きとともに感激しました。」との嬉しいお声をいただきました。

「カレー職人」



<お客様の声>

箱から出して、中袋だけレンジへという商品で、中袋の「この面を上にしてください」の記載ですが、どちらの面も同じような大きさの文字で同じような表記をしてあるため、分かりにくいです。うっかり表裏逆にレンジに入れてしまいました。大きく注意喚起してほしい。

<改良点>

「この面を上にして電子レンジへ」の文字を大きく、表裏が分かりやすいデザインに2017年1月生産分から変更しました。▼蒸気吹き出口を下にして加熱すると、蒸気吹き出口からカレーが漏れ出ることがあります。必ず、「この面を上にして電子レンジへ」と書いてある面を上にしてご使用ください。

「ポッキー極細」



<お客様の声>

手が汚れたら嫌だと思って、袋の絵を見てチョコレートの付いていない方を開けたら、チョコレートが付いている方が出てきて手が汚れた。

<改良点>

パッケージと内袋は同じデザインでしたが、実際の中身のポッキーと向きを合わせるデザインに2016年10月生産分から変更しました。

「ポッキー チョコレート」



<お客様の声>

パッケージの表示で外箱はリサイクルマークから「紙」と分かりますが「内袋」は何ですか？

<改良点>

内袋の「プラスチック」のリサイクルマーク表示を見やすくしました。

パッケージ機能の改善

「GABA」「LIBERA」などファスナ付き商品の開けやすさを改善



<お客様の声>

GABAチョコの「OPEN」の所を切って一度開けると、次に開けるのがなかなかうまくいきません。爪を入れようとしても入らなくて、早く食べたいのにと開けにくいです。

<改良点>

「ファスナーと切り取り位置の間隔が狭く、一度、ファスナーを閉じると再度開封する際に開封しにくい」「リクローズ後に指でつまめる面積が小さく開封しづらい」とのお申し出がありました。

2022年9月より、「メンタルバランスチョコレートGABA」は、切り取り位置、パンチ位置、ファスナーの位置を変更し、つまみやすくしました。

「LIBERA」は、ファスナー位置を2mm下げることによって開口からファスナー上辺までの長さを4.5mm→6.5mmに変更し、つまみやすくしました。

ダイバーシティ & インクルージョン推進

基本的な考え方

Glicoグループは、多種多様な社会課題を解決するために、ダイバーシティ & インクルージョンに真摯に取り組んでいます。私たちは、さまざまな個性を持つ従業員一人一人が、Glicoの存在意義（パーパス）とありたい会社の姿（ビジョン）の実現のために、自身の能力や経験を生かして活躍することが、新しい価値の創出の鍵を握ると考えています。また、同じ志を持つ社外の方や組織と連携し、活動の輪を広げながら社会課題の解決に取り組む姿勢も大切にしています。

ダイバーシティ & インクルージョン取り組み

私たちは、ダイバーシティ & インクルージョンが業務上のプロセスで実装される組織を目指し、「認知」、「行動」、「文化」の3つのフェーズでの組織づくりを推進しています。すべての従業員が等しく組織の一員だと感じられ、建設的な意見を出し合い、前向きに切磋琢磨して成果を創出する組織を目指しています。

社内イントラネットにおけるGlobal Must Read枠の構築

Glicoグループでは、国籍の違うグループ従業員全員が一体となり、目標に向かって日々の業務に取り組むことが重要と考え、インターナルコミュニケーションを推進しています。そのため、社内イントラネットを事業展開国に合わせて多言語化対応とし、経営層からのメッセージや創業のDNA等、グループ従業員が理解すべき情報はGlobal Must Read枠に掲載して発信しています。



社内イントラネット

D&I Weekの開催

2021年からD&I weekを開催しています。初年度は「認知」のフェーズとして、従業員一人一人がインクルージョンをより深く理解することを主目的に実施しました。具体的には、インクルージョンを阻む壁とされている『無意識のバイアス（先入観や誤解）』をテーマとし、「インクルージョンとは何か」、「バイアスと上手に付き合うにはどうしたらよいか」といった知識と認知の方法を学びました。2022年は「行動」のフェーズとして、『インクルーシブ・コミュニケーション』をテーマとしました。一人一人がインクルーシブな言葉や行動を選択して実践するスキルを学び、行動発揮を促すことをサポートしています。



D&IWeek 2022

女性の活躍推進

Glicoグループでは、企業価値向上の観点から、女性活躍推進が重要と考えています。具体的には、女性の役員・管理職への登用を促進するほか、女性従業員のキャリア開発研修や上司を対象としたダイバーシティマネジメント研修等を実施しています。さらに、子育て支援に関する各種制度を充実させています。

「くるみん」マークの認定

江崎グリコでは従来より、従業員の仕事と家庭・育児の両立のための各種施策を実施しており、2007年に厚生労働省から「くるみん」マークの認定を受けました。



「くるみん」マーク

<事例> 女性キャリア開発ワークショップ、上司向けダイバーシティマネジメントセミナー

ダイバーシティ推進施策の一つとして、20～30代の女性を対象に4日間のキャリア開発ワークショップと、その参加メンバーの上司を対象に、2日間のダイバーシティマネジメントセミナーを毎年実施しております。女性従業員に対する、今後のキャリアを考える重要性の理解促進と、その実現にむけたスキルの開発を行っています。そして上司を対象に、部下の多様なキャリアを理解し、その活躍をサポートする方法を学ぶセミナーを実施しています。



研修の様子

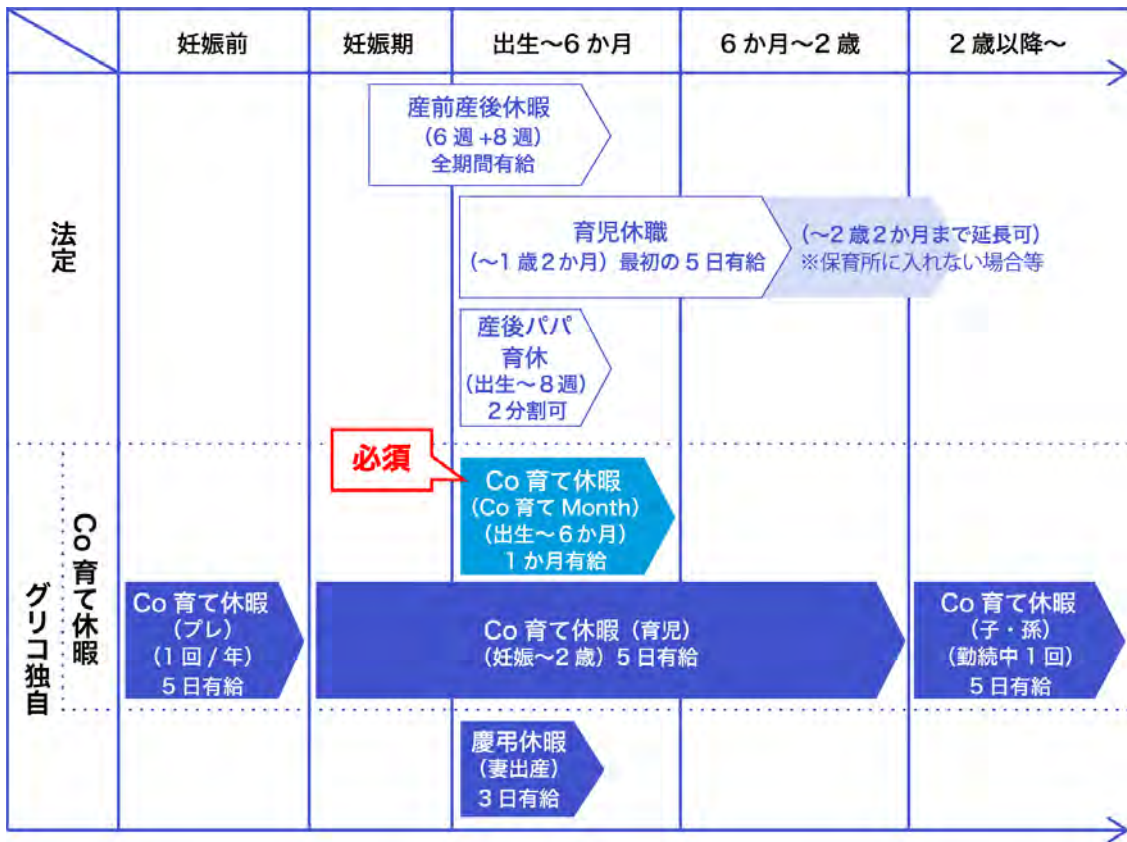
GlicoのCo(こ)育て

従業員が「Co育て」を起点に自らライフデザインを行い、多様な人財が活躍できる企業風土を目指しています。「Co育て」とは、Glicoグループが提唱する子育ての考え方で、家族のコミュニケーションを育み、父親や母親、周囲の人たちが協力して育児を行うことを目指すものです。



「Co育て休暇」

「Co育て休暇」は「Co育て」の取り組みの一つで、不妊治療や妊活、育児、子・孫の看護や検診、学校行事への参加のための有給休暇です。以下の4種類がありますが、このうち「Co育てMonth」は子どもの出生後6か月以内に1か月の休暇取得を必須とするものです。男性従業員の育児参画をさらに推進するとともに、対象者の休暇取得をきっかけにして、職場のメンバー全員が働き方についての意識と行動を見直し、生産性の向上とそれぞれのライフの充実を実現することを目指しています。



「育児休業等」と「育児目的休暇（Co育てMonth含む）」取得者の合計人数

	男性	女性
2020年度	57名	22名
2021年度	43名	26名
2022年度	31名	18名

粉ミルク費用補助

江崎グリコは、満1歳までの子を養育する従業員を対象に、乳児用粉ミルクの購入代金を一部補助する制度を設けています。

子の看護休暇

江崎グリコは、小学校3年生までの子を持つ従業員を対象に、負傷したり、疾病にかかった子の世話をするため、あるいは子の疾病予防のために年次有給休暇とは別に休暇の取得を認めています。子1人あたり1年間に5日まで、子が2人以上の場合は10日まで取得できます。

従業員向け保育施設「こどもぴあ保育園 神戸」

子育て世代の従業員が安心して働ける職場環境を整備する一環として、2019年4月、神戸工場の敷地内に従業員向け保育施設「こどもぴあ保育園 神戸」を開園しました。276㎡の敷地内には171㎡の園庭を備え、子どもが遊びに専念できるさまざまな運動プログラムを用意しています。工場の操業に合わせ、土曜・日曜・祝日も開園しています。



ふれあうココロ、いきるチカラ
こどもぴあ保育園
KOBE

こどもぴあ保育園 神戸

<事例> ユニ・チャーム×Glicoコラボ 企業向け両親学級「みんなの育休研修」神戸

粉ミルク・液体ミルクの「アイクレオ」を製造する江崎グリコと、紙おむつ「ムーニー」などを製造するユニ・チャームが手を取り、企業で従事しているプレパパママ従業員に向けて、企業内で実施する向けオリジナル両親学級「みんなの育休研修」の無償提供を開始しました。日本は、育児先進国と比較し、男性の家事・育児時間が少ないと言われます。2022年4月から改正育児・介護休業法が順次施行され、子どもの出生直後に父親が休みを取りやすくなる「産後パパ育休（出生時育児休業）」などが新たに設けられました。研修では、産休や育休の取得予定者などを対象に、男性育児の必要性と影響、育児で負担の大きい“授乳”“睡眠”“排泄”の方法などについて、当社の栄養士・子育てアドバイザーなどの話を交えて紹介しています。多くの企業様、官公庁様に受講いただき、育休取得の後押しになったとの反響をいただいています。



<事例> 「イクメン企業アワード2020」理解促進賞を受賞

「イクメン企業アワード」とは、厚生労働省が育児を積極的に行う男性＝「イクメン」を応援し、男性の育児休業取得を促進するイクメンプロジェクトの一環として、男性従業員の育児と仕事の両立を推進する企業を表彰するものです。江崎グリコは、「Co育てPROJECT」を中心とする取り組みが、男性の育児を積極的に支援する活動として評価され、理解促進賞を受賞しました。



(右) 2020年11月授賞式の様子

<事例> 「国連グローバル・コンパクト2021年リーダーズサミット」への登壇

国連グローバル・コンパクト2021年リーダーズ・サミットは、国連事務総長をはじめ、世界中のリーダー達がスピーカーとして登壇し、SDGs加速のために議論するオンラインサミットです。Glicoグループでは、2019年に「国連グローバル・コンパクト」に署名し、持続可能な社会の実現に向けて、さらなる貢献を目指し取り組んできました。2019年に当社で始動した「Co育てPROJECT」は、パートナーや周りの家族が協力して子育ての課題に社内外で取り組むプロジェクトです。この度、「Co育てPROJECT」が“Gender equality”取り組みの1つとして評価され、リーダーズサミットにて、当社取り組みについてご紹介しました。



再雇用の取り組み

従来から導入している定年後再雇用制度（シニア社員制度）について、2021年4月法改正の努力義務対応として2021年4月にシニア社員制度を改定し、最長70歳までの雇用延長を可能としました。この改定により、年齢に関係無く業績貢献できる従業員が活躍できるようにしました。また、一度退職した従業員を再雇用するカムバック制度も導入しており、現在もカムバックしている従業員が活躍しています。

障がい者雇用の取り組み

障がい者雇用について、江崎グリコでは3%以上の雇用率を目標に雇用拡大、定着促進の取り組みを推進しています。また、国内の全てのグループ会社で法定雇用率を達成することを目指し、国内グループ会社では業務の精査や適材適所の採用等を実施しています。

	2020年度	2021年度	2022年度
障がい者雇用率 (%)	3.30	3.33	3.43

※障がい者雇用状況報告書（ロクイチ報告）より数値引用

多様な人財が適材適所で活躍できるための施策

Glicoグループでは、多様な人財が適材適所で活躍するためにさまざまな施策を行っています。2018年度においては、障がいのある人がその障がいの種類にかかわらず活躍できる職場を目指し、2018年10月1日には、新たな職場「スマイルファクトリー」を本社敷地内に開設しました。この職場では輸出商品のラベル貼り等を行い、外部委託してきた業務の内製化を図りました。「やりがいを感じる」「必要とされていることを実感できる」体制づくりを進めるとともに、作業場はもちろん休憩スペースにも障がいの種類にかかわらず働きやすい環境を整えています。今後は障がい者がハンデとならない職務の開発や、長期雇用を支援する体制と仕組みづくりにも取り組んでいきます。

また、「スマイルファクトリー」では、ノーマライゼーション（障がい者と健常者が平等に当たり前働ける環境）の実現を目指し、従業員は常時見学可能としています。



外国籍従業員採用の取り組み

Glicoグループでは、事業のグローバル化に伴い外国籍従業員の雇用を進めています。過去には米国、中国、韓国、スイス、タイ、ベトナムから人財を採用してきました。今後もダイバーシティ&インクルージョンの観点から、外国籍従業員の雇用を進めていきます。

多様な性への取り組み

Glicoグループでは、LGBTQ等の性的マイノリティの方が働きやすい職場環境に加え、全ての従業員が多様な性の形をオープンに理解し認め合う風土醸成に向け、社内セミナー研修やeラーニングによる教育等の活動、福利厚生に関する施策の検討を進めています。2021年度からは慶弔規程を一部改訂し「慶弔金及び休暇付与」の対象を、異性であるか同性であるかを問わず、事実上婚姻と同様の関係にあると会社に届出を行った者と定義しました。LGBTQ等の性的マイノリティの方に加え事実婚についても対象として認め、個人の考えや家族の形の多様化に対応しています。「PRIDE指標2022」ではゴールドを受賞しました。



働きやすい職場づくり

ワークも、ライフも

Glicoグループでは「ワーク（仕事）」と「ライフ（仕事以外の生活）」を分けて考えません。ライフにはワークも含まれていると広く考え、両者の質を上げる取り組みを進めています。具体的にはテレワーク制度やフレックスタイム制度、時間単位年次有給休暇制度等を導入している他、業務効率化による残業時間の削減や年次有給休暇の取得促進にも全社を挙げて取り組んでいます。

役員・従業員に関するデータ

役員と従業員等の総数

	男性	女性	合計
2020年度	1,444名	1,146名	2,590名
2021年度	1,428名	1,119名	2,547名
2022年度	1,404名	1,122名	2,526名

※役員、正社員、契約社員、派遣社員、出向者（出）を含む
※集計基準の見直しにより過年度の集計数値を合わせて変更しています

課長級以上～役員以下の人数

	男性	女性	合計
2020年度	288名	21名	309名
2021年度	273名	22名	295名
2022年度	276名	25名	301名

※集計基準の見直しにより過年度の集計数値を合わせて変更しています

取締役の人数

	全取締役人数	(内社外取締役人数)	全監査役人数	(内社外監査役人数)
2020年度	8名	(4名)	5名	(3名)
2021年度	8名	(4名)	5名	(3名)
2022年度	8名	(4名)	5名	(3名)

※各年度とも株主総会時の人数

新卒採用者数

	男性	女性	合計
2020年度	17名	13名	30名
2021年度	15名	13名	28名
2022年度	18名	15名	33名

キャリア採用者数

	男性	女性	合計
2020年度	37名	10名	47名
2021年度	38名	10名	48名
2022年度	38名	17名	55名

※役員除く正社員登用者・転籍者含む数字

キャリア採用比率（採用（新卒＋キャリア）に占めるキャリア採用の比率）

	キャリア採用比率
2020年度	61%
2021年度	63%
2022年度	62.5%

業績とキャリア開発についての定期的評価を受けている従業員の比率

	比率
2020年度	56.1%
2021年度	64.7%
2022年度	64.5%

※非正社員も含む全従業員の数値（正社員、エキスパート社員、シニア社員に対する比率は100%）

労働時間や休日、年次休暇の取得状況

	年間休日	所定労働時間	所定外労働時間 (1人・年当たり)	年次有給休暇 取得平均日数
2020年度	127日	1852.25時間	283.9時間	12.6日
2021年度	124日	1867.75時間	308.3時間	13.2日
2022年度	125日	1844.50時間	313.1時間	13.76日

年次有給休暇

江崎グリコでは、土曜・日曜・祝日が休みの完全週休2日制にするとともに、年間で最大20日の年次有給休暇を付与（前年未使用分は繰り越し分として上乗せ）しています。

年次有給休暇取得率

年度	2020年度	2021年度	2022年度
年次有給休暇取得率	68.7%	70.9%	73.5%

テレワーク制度

江崎グリコでは、従業員の自律的・効率的な働き方を促進し、業務効率化と生産性の向上を目的として、自宅等、会社以外の場所で勤務できる制度を整えています。

<事例> 「テレワーク先駆者百選 総務大臣賞」を受賞

江崎グリコは、総務省が主催する令和2年度「テレワーク先駆者百選」において、最高位となる「総務大臣賞」を受賞しています。2015年から、在宅勤務による育児介護従事者の両立支援にも取り組み、障がい者の就業支援や天候災害時における従業員の安全確保の観点でも有効活用している点等を評価いただき、受賞となりました。



各種制度

制度	概要
テレワーク制度	従業員の自律的・効率的な働き方の促進による業務効率化とワークライフバランスの向上を目的とした、会社以外の場所で勤務できる制度
勤務地特約制度	従業員の持続的な能力発揮と高い組織活力の実現を目的として、勤務地を特約する制度
ボランティア休暇制度	従業員が、甚大な自然災害が発生した地域における「ボランティア活動」に従事する際に、保存休暇を活用できる制度
裁判員休暇制度	裁判員として裁判所に行った日は、年次有給休暇とは別に休暇が付与される制度
半年次有給休暇制度	半日単位で年次有給休暇を取得できる制度
時間単位年次有給休暇制度	時間単位で年次有給休暇を取得できる制度
フレックスタイム制度	効率的な時間活用を目的として、各人が勤務時間を自主的に選択できる制度
サテライト・オフィス制度	営業拠点が遠隔地の場合等、長距離通勤を解消するため事務所を借り上げ、セールススタッフが活用する制度
妊娠、出産、育児に関する諸制度	<ul style="list-style-type: none">● Co育てMonth● Co育て休暇● 妊婦の時差勤務● 通院時間の保障● 妊娠中面談● 育児休職前面談● 産前産後休暇（出産休暇）● 出産祝金● 出産育児一時金● 産前産後休暇中の社会保険料の免除● 出産に伴い高額な保険診療が必要な場合の補助● 家族手当● 産後復職前面談● 育児休職● 粉ミルク費用補助● 育児休業給付金● 育児短時間勤務● 子の看護休暇● 所定外労働・休日出勤の免除・制限、深夜業の制限● 勤務地特約制度
介護に関する諸制度	<ul style="list-style-type: none">● 介護休職● 介護休業給付金● 介護別居手当● 介護短時間勤務● 介護休暇● 所定外労働・休日出勤の免除・制限、深夜業の制限● 勤務地特約制度

労働安全衛生

Glicoグループでは「グループ安全衛生方針」（2018年4月SCM本部制定）のもと、事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、労働安全衛生の各種活動に取り組んでいます。2018年から「機械設備の安全化」と「安全キーパーソンの育成」を注力課題に掲げ、Glicoグループ生産部門の共通取り組みとして、SCM本部・グリコマニュファクチャリングジャパン各工場が協同して推進しています。

「機械設備の安全化」においては、リスクアセスメントの手法をもとに現在、機械設備への「挟まれ・巻き込まれ事故ゼロ」を目標に、リスク・ハザードの特定と評価ならびに設備ハード面へのアプローチを重視した安全対策を徹底して進めています。また、工場へ新設備を導入する際のリスクアセスメント・安全審査も2019年に再整備を行い、強化しています。

「安全キーパーソンの育成」では、中央労働災害防止協会と連携し、リスクアセスメントおよび危険予知トレーニング（KYT）に関する講習会、2023年の安全法令改正を見据えた職長教育を行い、工場現場において安全衛生活動の核となるキーパーソンの育成を進めています。労働安全衛生の教育体系を整備し、必要な安全衛生教育や講習に体系的かつ計画的に取り組んでいます。

また、日本国内の少子高齢化に伴い、工場契約従業員の平均年齢も上昇傾向にあることから、運動機能の維持・向上を目的として、主に下肢機能の定期測定、並びに機能低下を予防するための運動啓発を2019年よりスタートしました。健康で活き活きと働くことができる安全な職場環境づくりに今後も継続して取り組みます。

労働災害の防止

Glicoグループの製造現場では、安全・衛生活動を徹底し、安全・安心な職場づくりに努めています。朝礼等での安全呼称、KY（危険予知）活動、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）活動を通じて従業員の怪我を防止し、安全で明るく健康的な職場を目指しています。2020年度、2021年度、2022年度はいずれも生命に関わる重大事故は発生しておらず、労働災害による死亡者数は0名です。

セールス部門における交通安全取り組み

セールス活動の移動手段である営業車の事故防止にも取り組んでいます。自動ブレーキ・コーナーセンサー等の安全装置の充実した車両の導入、ドライブレコーダー搭載といったハード面の他、運転中に電話に出ないように携帯電話の「運転集中モード」の設定義務化、安全運転に関する動画視聴や教育、新入社員のドライバーズ講習義務化や運転に特化したOJT等、安全運転教育にも重点的に取り組んでいます。

AED導入

職場での急な心停止といった事態に備え、AED（自動対外式除細動器）の導入を進めています。本社、大阪梅田オフィス、品川オフィス、各統括支店、一部の生産工場に設置しました。

Glicoグループ人権方針の策定・プロセス

Glicoグループでは、事業を展開する上で役職員のみならず、全てのステークホルダーの人権を尊重することが重要であると考えています。

この考えの下、Glicoグループはこれまでも「Glicoグループ行動規範」に基づき人権を守る活動を行ってきましたが、この度、その考えをさらに進めて、グローバルスタンダードである2011年の国連人権理事会で承認された「ビジネスと人権に関する指導原則」に則した「Glicoグループ人権方針」を策定し、これに準拠した人権尊重を進めることにしました。

「Glicoグループ人権方針」は、2019年8月にグループ内に横断的なプロジェクトチームを発足させ、各担当部門がグローバル企業に求められる広範な人権課題への理解を深め検討を行う一方で、グループ外の専門家からもアドバイスをいただきながら、グローバル企業としての責任を果たすべき指針として策定されました。

本方針に基づき、役職員のみならず、全てのステークホルダーの人権を尊重するために、Glicoグループでは、サプライヤー等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンの皆さまにも「Glicoグループ人権方針」への理解と支持を求めています。

Glicoグループ人権方針

Glicoグループはグローバルに事業を展開するうえで、役職員（※）のみならず、全てのステークホルダーの人権を尊重することが重要であると考えています。こうした考えに基づき、この「Glicoグループ人権方針」において基本的人権の尊重に関するGlicoグループの取り組み方針を定め、役職員によって遵守してまいります。併せて、「Glicoグループ行動規範」の中でも、役職員一人ひとりが基本的人権を尊重することを宣言しています。

さらに、Glicoグループとして、サプライヤー等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンの皆様にも本方針への理解と支持を求めていくものです。

これをもって、持続可能な社会を実現するための模範となるよう、取り組みます。

※本方針において「役職員」とは、Glicoグループの取締役、監査役、執行役員および従業員（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト社員を含む）を意味します。

1. 人権の尊重

1) Glicoグループは、「国際人権章典（世界人権宣言と国際人権規約）」「労働における基本原則及び権利に関するILO宣言」といった人権に関する国際規範や「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持します。また、Glicoグループの親会社である江崎グリコ株式会社は、国連グローバル・コンパクトに署名しており、Glicoグループ全体でその10原則を支持しています。

2) Glicoグループは、事業活動を行う全ての国・地域において、自らの活動に関連する法令・ルールを理解し、これらを遵守します。万が一、同国または同地域の法規制が国際的な人権規範と一致しない場合、相反する場合、或いは同国または同地域において人権に関する法規制が存在しない場合は、国際的な人権の原則を尊重するための方法を追求します。

2. 事業活動に関わる重要領域

1) Glicoグループは、自身による研究開発・調達・商品やサービスの提供をはじめとする全ての事業活動が、潜在的にまたは実際に人権へ影響を及ぼす可能性のあることを認識しています。

2) Glicoグループは、事業活動に関連する以下の取り組みが、人権尊重の重要な要素であると認識し、同取り組みを推進し実行していきます。なお、これらの取り組みは、Glicoグループの事業活動が大きな影響力を持つ領域から推進します。

(a) 労働における基本原則および権利に反する「強制労働」および「児童労働」を容認せず、これらを利用しません。

(b) 年齢、性別、性的指向、障がいの有無、信条、人種、国籍、民族、宗教および社会的身分その他の状況を理由とする差別を行いません。

(c) 各国・各地域で働く一人ひとりが多様な個性や能力を発揮し成長することができるよう、適正な労働環境の確保に努めます

(d) 各国・地域の法規制等に基づく結社の自由と団体交渉権等について労働者の権利を尊重します。

3. 人権デューデリジェンスの実施

1) Glicoグループは、自らによって、またはサプライヤー等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンにおいて、人権侵害を起さず、また人権侵害を助長しないように努めます。加えて、国連が定める「ビジネスと人権に関する指導原則」に従って、その事業活動に関係する人権への負の影響を特定し予防または軽減を目的とした検証を継続的に行います。

2) Glicoグループまたはバリューチェーンにおいて人権侵害を引き起こした場合、または、それを助長したことが明らかになった場合に、適切かつ効果的な救済措置を講じ、どのように対処したかを伝えるプロセスの構築に取り組みます。

3) Glicoグループは、自身の事業活動が実際にまたは潜在的に及ぼす人権への負の影響について、関連するステークホルダーを認識し、人権への影響に適切に対応していくために、ステークホルダーからの視点が必要であることを考えています。Glicoグループは、ステークホルダーの皆様の意見に誠意をもって耳を傾け、適切なタイミングで事業活動に関連する人権課題を共有していきます。

4. お問い合わせ窓口

1) Glicoグループでは、其々の国や地域の法令・ルールまたはGlicoグループ人権方針をはじめとするグループ内規程に違反する可能性を認識した役職員やそれを疑う役職員が、不利益を被る危険を恐れることなく会社に真摯な懸念を伝えることのできる内部通報窓口の重要性を認識しております。その一環として、Glicoコンプライアンスホットラインのグローバルでの設置を進めており、人権に関する報告や内部通報を行った役職員に対して如何なる不利益な取扱いも行いません。

2) Glicoグループでは、お客様をはじめとする外部のステークホルダーの方々からのご指摘や助言に対し、人権の問題に関するお問い合わせ窓口を設置し、それらを真摯に受けとめ、人権問題への取り組みをはじめとする事業活動の向上に生かします。

5. 啓発活動

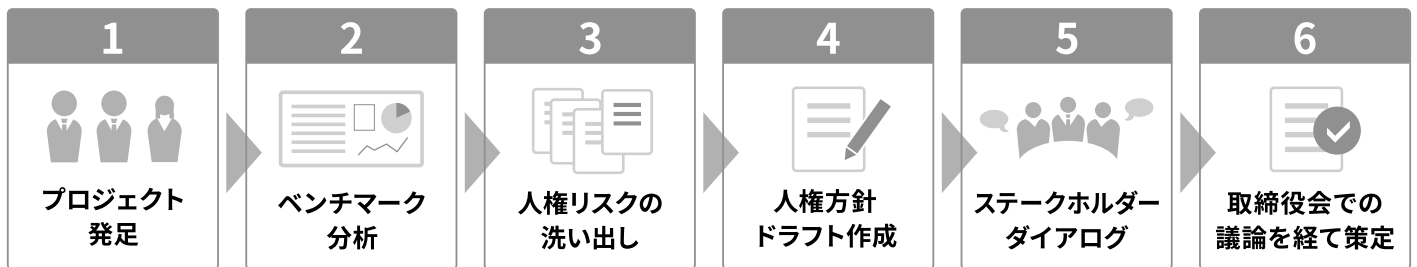
Glicoグループは、人権に関する各項目につき、役職員の意識を向上させるための啓発を行います。また、ビジネスパートナーにも同様の啓発を期待します。

6. モニタリングと報告

Glicoグループは、このGlicoグループ人権方針の遵守状況を継続的にモニタリングし、必要に応じて、遵守状況の改善に努めます。Glicoグループは、モニタリングにより特定された問題やそれへの対応等、必要な情報は、WEBサイトやCSR報告書等を通じて、定期的の開示をしていきます。

7. 責任者

このGlicoグループ人権方針におけるコミットメントの実現およびそれに向けた取り組みに関するGlicoグループでの監督責任は、江崎グリコ株式会社の代表取締役社長が担います。



①プロジェクト発足

2019年8月にグループ内に、グローバルで横断的なプロジェクトチームのメンバーによる人権方針策定プロジェクトを発足しました。



②ベンチマーク分析

専門家のアドバイスを得ながら、国内外の先行企業の人権への取り組み状況を確認し、取り組むべき事例等の理解を深めました。



③人権リスクの洗い出し

専門家のアドバイスを得ながら、製造業に関連し、かつGlicoグループが事業や調達を行う地域で想定される人権上のリスクの洗い出しました。



④人権方針ドラフト作成

「指導原則」他に準拠し、各事業に照らし対処すべき人権課題や長期的な取り組みへのコミット等を盛り込んだ人権方針のドラフトを作成しました。



⑤ステークホルダーダイアログ

人権課題への取り組みに関わる有識者とプロジェクトメンバーでダイアログを行い、人権方針についてアドバイスをいただき、本方針に取り入れました。フィードバックは以下の通りです。有識者とは継続的に対話を通じた関係を構築予定です。

<ご意見をいただいたステークホルダー>



認定NPO法人国際協力NGOセンター（JANIC）事務局長
グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事
若林 秀樹 氏



認定NPO法人ACE事務局長／共同創業者
白木 朋子 氏

項目	主なフィードバック
0. 前文	<ul style="list-style-type: none"> ・過去をなぞるだけでなく未来を見据えて、新たなチャレンジがあると良い。 ・事業活動に限らず、人権侵害のない持続可能な社会構築に貢献する旨を宣言することを推奨する。
3. 人権デューデリジェンスの実施	人権デューデリジェンスの目的は、人権方針策定から、モニタリング、救済、ステークホルダー・エンゲージメント、開示までを含めた一連の継続的な取り組みである。表現を工夫すべきである。
4. お問い合わせ窓口	社内外のステークホルダーから人権侵害を通報できる仕組みを構築するのみならず、情報開示まで行うことが重要である。
5. 啓発活動	啓発活動においては、役職員一人一人が人権課題の危険性を理解し、自ら行動を起こせるようになるのが重要である。



2020年4月人権課題への取り組みに関わる有識者とプロジェクトメンバーとのテレビ会議を通じたダイアログを実施



⑥取締役会での議論を経て策定

「指導原則」に準拠し、取締役会での議論を経て、策定しました。

従業員の人権を守るための取り組み

Glicoグループの役員・従業員一人一人による法令違反や社内規程への違反行為の未然防止と早期発見を目的として、「Glicoコンプライアンスホットライン」を設けています。違反またはその疑いを発見した者は、自身が不利益を被る危険を懸念することなく会社に通報することができます。通報に対しては、経営陣から独立した調査機関が調査・対応します。実名通報、匿名通報、半匿名通報の3つのパターンがあり、Glicoグループにおけるパート・アルバイト等を含む全ての役員・従業員が利用可能です。

人権に関する社内啓発

Glicoグループ全従業員を対象に、「人権」に関するグローバルスタンダードや基礎知識を習得し、「Glicoグループ人権方針」への理解をより深め、実践に移していただくことを目的とした人権eラーニングを実施しています。

サプライチェーンマネジメント

グローバルに事業活動を行うGlicoグループでは、GlicoグループのCSRの考え方に基づき、「バリューチェーンを通じて、人権尊重・腐敗防止・競争法等を遵守することにより、付加価値の高い事業活動を推進する」ことを目標に掲げています。それを実現するため、ISO26000および国連グローバル・コンパクトをもとにGlicoグループが公正取引において配慮すべき課題を明確にしたうえで、「公正取引基本方針」を策定し、2019年4月に発効しました。

公正取引基本方針

私たちは、当社グループのみならず、バリューチェーンにおいて、各国法令を遵守するとともに以下事項の実現を目指すことにより、高い倫理観に基づく持続的で付加価値の高いグローバルな事業活動を推進します。

1. 労働における基本的原則及び権利に反する「強制労働」及び「児童労働」、「雇用及び職業における差別」を排除・撤廃すること。
2. 公務員や政治家はもちろんのこと、ビジネスパートナーとの適切な関係を保ち、また、役職員による利益相反取引を避ける等、あらゆる形態での腐敗を防止すること。
3. カルテル、談合等の自由な競争を阻害するあらゆる行為に関与せず、お客様へ安心・安全で質の高い商品やサービスを提供することを第一に、市場にて適切な競争を行うこと。
4. 資産の有形・無形を問わず、第三者が保有する正当な財産権を尊重した活動を行うこと。
5. 上記各項目につき、関係者との間で互いに意識を向上させ、以って、問題発生の未然防止と顕在化した問題への迅速で適切な対応を実現すること。

調達活動について

Glicoグループは、事業を通じて社会に貢献し続けるために「Glicoグループ行動規範」を定めています。また、さらなる企業価値向上と社会課題解決への取り組みを推進するため、2019年11月に国連グローバル・コンパクトに署名しました。これを受けて、2016年3月に制定した「購買基本方針」を見直し、グローバルイニシアティブに準拠した新たな方針として「Glicoグループ調達方針」を定めました。

Glicoグループの調達活動においては、本方針を遵守し、お取引先様等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンの皆様にも理解と支持を求めています。

Glicoグループ調達方針

Glicoグループは、お客様へ安全・安心な商品・サービスを提供するために、法令を遵守し、公正かつ透明性をもった高い倫理観により、お取引先様とともに国連グローバルコンパクトの定める「人権」・「労働基準」・「環境」・「腐敗防止」の4分野10の原則に配慮した調達活動を実施することを目的として、本方針を制定します。

1. 私たちは、「Glicoグループ公正取引基本方針」に準拠し、関係各国の法令のもと公正・公平で透明な調達活動を実施します。お取引先様とは適切な関係を保ち、互惠取引等、あらゆる形態での腐敗を防止します。
2. 私たちは、「Glicoグループ人権方針」に準拠し、人権に関する国際規範を支持・尊重した上で、強制労働、児童労働、あらゆる差別等の人権侵害を排除した調達活動を推進します。
3. 私たちは、「Glicoグループ環境方針」に準拠し、環境に配慮し、持続可能な社会の実現に向けた調達活動を実施します。
4. 私たちは、「Glicoグループ品質方針」に準拠し、お客様にとっての「おいしさと健康」に繋がる高品質な原材料の探索と確保に向けて、品質最優先の調達活動を実施します。

5. 私たちは、品質をはじめとする調達対象の価値を適正に評価し、納期、安定供給などを加えた総合的な判断により、お取引先様の選定を行います。お取引先様に対し、公正・公平な参入機会を提供し、サプライチェーン全体での多様性を尊重します。
6. 私たちは、購買取引を通じて知り得たお取引先様の機密情報を守秘します。また第三者の知的財産権などの権利を侵害しません。

江崎グリコ株式会社
SCM本部長

制定 2020年12月
改訂 2023年 1月

お取引先様へのお願い

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」を遵守した調達活動を推進しております。つきましては、お取引先様におかれましても下記調達ガイドライン項目を実行いただけますようお願いいたします。

お取引先様向け調達ガイドライン

Glicoグループは、調達活動の中で国連グローバルコンパクトの定める「人権」・「労働基準」・「環境」・「腐敗防止」の4分野10の原則を支持、実践することで企業価値を高め、お取引先様と協働で社会へ貢献してまいります。全てのお取引先様は当ガイドラインを貴社内で周知いただき、遵守に向けた取り組みをお願いいたします。

1. 内部統制や専任のCSR推進体制の整備等によりコーポレートガバナンスが確立できていること。
2. 人権に関する主な国際的枠組み及び規範^{※1}を遵守しており、いかなる差別や人権侵害を禁止していること。
3. 労働に関する主な国際的枠組み及び規範^{※2}を遵守しており、「適正な賃金・労働時間」「非人道的な扱い」「強制労働」「児童労働」「不法労働」等を認めないことにより、労働者に安全で健全な労働環境を整えていること。また、従業員の心身の健康の把握・管理を適切に行うこと。
4. 環境に関する主な国際的枠組み及び規範^{※3}を遵守しており、持続可能な社会の実現に向けて「温室効果ガスの削減」「資源エネルギーの効率的活用」「廃棄物の削減」「水の有効利用」「森林破壊の抑止」「生物多様性の尊重」「動物福祉」等に取り組んでいること。また、環境マネジメントシステムを構築・運用していること。
5. 公正な企業活動に関する主な国際的枠組み及び規範^{※4}を遵守しており、「反社会的勢力との関係排除」「あらゆる形態での腐敗防止」「不公正な取引防止」等に取り組んでいること。また、お取引先様に対し、公正・公平な参入機会を提供し、サプライチェーン全体での多様性を尊重していること。
6. 品質・安全性に関する主な国際的枠組み及び規範^{※5}を遵守しており、原材料、輸送の品質及び安全性を確保していること。また、研究開発・マーケティングは責任をもって実施され、事業継続計画(BCP)を整備とあわせて、製品の安定供給に対する措置を用意すること。
7. 事業活動を通じて得た情報を適切に管理・保護し、コンピュータ・ネットワーク上の脅威に対する防御策を講じていること。また機密情報や個人情報は適正に管理すること。
8. 貴社のみならずサプライチェーンを通してCSR調達を実践し、社会的責任を果たすこと。
9. 地域社会との取り組みにより持続可能な社会の発展に取り組んでいること。

※1 国連グローバル・コンパクトの10原則、世界人権宣言等

※2 国連グローバル・コンパクトの10原則、ILO中核的労働基準等

※3 国連グローバル・コンパクトの10原則、バリ協定等

※4 国連グローバル・コンパクトの10原則、腐敗防止に関する国連条約等

※5 ISO90001、HACCP等

制定 2020年12月

公正・公平な取引の徹底

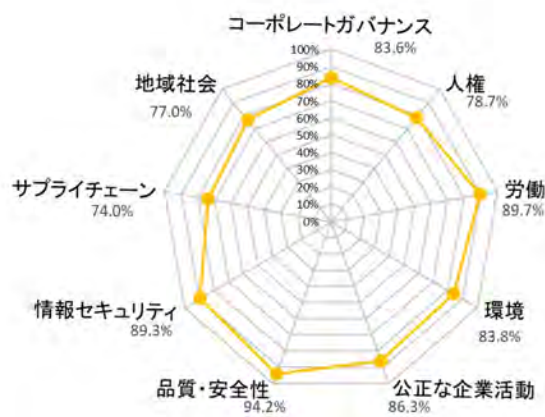
Glicoグループのパートナーとしてともに歩んでいただく取引先に対し、Glicoグループが目指す高い倫理観に基づく持続的で付加価値の高いグローバルな事業活動に賛同していただくため、Glicoグループが適切と考える条件を取り決めた「取引基本契約書」を締結し、これに基づく取引を行っています。Glicoグループでは、公正な評価・選定や公平な競争機会を基盤に、国内外の法令に則った公正・公平な取引を行うとともに、取引先との信頼関係の強化に努めています。

公正・公平な取引に対する取引先の評価

江崎グリコでは、「Glicoグループ調達方針」に沿って公正・公平な取引が行われているかを確認・検証するために、年1回、調達部門による自己評価、および取引先による調達部門への評価を実施しています。

新規取引先の選定にあたっては、経営、CSRへの取り組み、品質、コスト、納期、サービス等について評価し、最適な取引先を選定しています。すでに取引している取引先に対しても、年1回、同項目について取引先およびGlicoグループが公正・公平に評価を行っています。2022年度は、2021年度に続いてグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの労働・人権・環境・腐敗防止に基づく10原則に沿って調査しました。また、改善指導対象と評価した企業に対しては弱点を強化しパートナーとして育成することにも取り組んでいます。

取引先調査の結果（サプライヤー様平均）



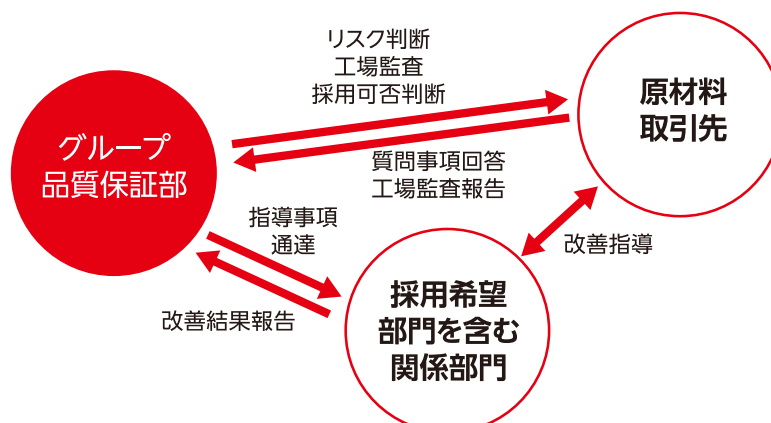
贈収賄防止の取り組み

「公正取引基本方針」に基づいて公人・役人・取引相手との金品の授受による不適切な取引や癒着を排除するため、グローバルな贈収賄防止についてのグループ内ルールを策定し、2019年3月より各国のグループ会社に順次導入しています。シンガポール、タイ、インドネシア、中国のグループ会社で研修会を実施したのを皮切りに、日本を含め残りの地域で順次研修を実施します。

安全・安心管理の徹底

グループ品質保証部が中心となり、取引を希望する部門と取引先を連携し、サプライチェーン全体で安全・安心な調達を実現する体制を整えています。

安全・安心管理体制図



取引先との管理システムの共有

「製品情報システム」や「原料納入規格書システム」といった品質管理に関わるシステムの表記統一を図るとともに、今後は、「品質管理プログラム」に統合し、一貫した品質管理体制を構築することを目指しています。また、取引先と協力し、トレーサビリティのデジタル化に取り組んでいます。2019年4月までに取引先から納品される原材料へのバーコードラベルの貼付を必須化しました。今後もバーコードからQRコードへの切り替えによる情報強化など、トレーサビリティ向上への取り組みを推進していきます。

コンプライアンス

Glicoグループは自社はもちろん、取引先に対しても事業活動を行っている国・地域の法令遵守と倫理的行動を求めています。

独禁法の遵守

国内においては、「独禁法遵守ガイドライン」を策定し、国内グループの関連部門で独禁法教育を実施しており、グループ調達部等を通じて取引先にも遵法活動を求めています。

CSR調達

Glicoグループでは、環境や人権に配慮して事業活動を行う取引先からの調達を推進しています。

< 持続可能な調達に関するコミットメント >

カカオの調達について

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」に基づき、カカオの調達について以下の通りコミットします。

【コミットメント】

Glicoグループは、カカオが抱えている社会課題（児童労働、農家の貧困、森林伐採など）に配慮し、持続可能な方法で生産されたカカオの調達を推進します。

【主な取り組み】

- Glicoグループは、2021-2022年クロープ以降、購入ルートを通じて生産者に支援を行っているカカオ豆の購入率を100%とします。
- ガーナにおいて以下4つの現地支援プログラムを実行します。
 1. 2026年末までに、Assin Fosu地区でGlicoがカカオ豆を購入している村において、Child Labor Free Zone (CLFZ) 認定要件に準じた児童労働予防・改善の仕組みを構築します。
 2. 2025年末までに、Assin Fosu地区でGlicoがカカオ豆を購入している村において、現在学校に通えていない子供たちの全員が学校に通える環境を整備します。
 3. 2025年末までの間において、Assin Fosu地区でGlicoがカカオ豆を購入している村に対し、基礎インフラを整備するための支援を継続的に行い、人々のより良い生活の実現を目指します。
 4. 2026年末までの間において、Assin Fosu地区でGlicoがカカオ豆を購入している村に対し、肥料提供・営農指導を継続的に行い、農家の生産性と収入の向上を目指します。
- カカオの調達における取り組みについては、CSRレポート上で適宜報告します。

制定 2022年4月

パーム油の調達について

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」に基づき、パーム油の調達について以下の通りコミットします。

【コミットメント】

Glicoグループは、パーム油が抱えている社会課題（環境破壊、農園労働者の人権問題、先住民の土地強奪や紛争、泥炭地開発など）に配慮し、持続可能な方法で生産されたパーム油の調達を推進します。

【主な取り組み】

- 第三者認証団体への加盟
当社は2019年度にRSPO※に加盟しました。RSPO認証を受けたパーム油の購入を推進するとともに、社内関連部門によりRSPOサプライチェーン認証を取得することで、持続的な調達に取り組みます。
- 第三者認証パーム油の使用
ポッキーとビスコについては2021年にRSPO認証油（Mass Balanceモデル）の使用をすでに開始しており、2025年末までにグループ会社で生産する全ての商品に同モデルを展開します。
- パーム油の調達における取り組みについては、CSRレポート上で適宜報告します。

※ RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil 持続可能なパーム油のための円卓会議）

制定 2022年4月

プラスチックの調達について

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」に基づき、プラスチックの調達について以下の通りコミットします。

【コミットメント】

Glicoグループは、資源循環社会の実現のため、容器包装材の減量化をはじめ、環境負荷の少ない素材やリサイクル処理しやすい包材の採用など、4R※の実行により環境に配慮したプラスチックの調達を推進します。

【主な取り組み】

- 「Glicoグループ環境ビジョン2050」に則り、2024年末までに1WAY（石化由来）プラスチックを25%削減（2017年比）、2030年末までに100%リサイクル可能素材への転換、2050年末までに100%リサイクル原料の使用を目指します。
- すでに製品付属のストローや「セブンティーンアイス」のスティックの一部をバイオマスプラスチックに転換するなど、環境配慮型素材の導入を進めています。
- プラスチックの調達における取り組みについては、CSRレポート上で適宜報告します。

※ 4R（Reduce=削減、Reuse=再使用、Recycle=再生利用、Replace=置換）

制定 2022年4月

紙の調達について

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」に基づき、紙の調達について以下の通りコミットします。

【コミットメント】

Glicoグループは持続可能な森林活用・保全のため、紙の使用量削減や第三者認証紙への置換など、4R※1の実行により環境に配慮した紙の調達を推進します。

【主な取り組み】

- 「Glicoグループ環境ビジョン2050」に則り、2030年末までに森林認証紙（FSC※2やPEFC※3など）への100%切り替えを目指します。
- 社内ペーパーレス化の推進により、2017年から2020年にかけて約80%（36トン相当）のコピー用紙を削減しました。会社案内、製品パンフレットもすでにペーパーレス化しております。
- 紙の調達における取り組みについては、CSRレポート上で適宜報告します。

※1 4R（Reduce=削減、Reuse=再使用、Recycle=再生利用、Replace=置換）

※2 FSC（Forest Stewardship Council=森林管理協議会）

※3 PEFC（Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes =森林認証プログラム）

制定 2022年4月

環境や人権に配慮した原材料の調達

安全・安心はもちろん、環境や人権にも配慮した調達を推進しています。

【1】カカオ豆調達の取り組み

購入ルートを通じて農家に対する支援を行っているカカオ豆の調達を推進しています。2021年の購入分より、当該カカオ豆の調達比率は100%となっています。さらに、2022年に「カカオの調達について」のコミットメントを発表するとともに、以下の活動を行いました。

● 1) 児童労働予防・改善の取り組み

コミットメントに基づき、ガーナのAssin Fosu地区で認定NPO法人のACEと連携し、2022年に以下の取り組みを行いました。

1. ガーナ政府の児童労働フリーゾーン(CLFZ)ガイドラインの要件に基づき基礎調査を行い、リスク分析を行いました。
2. リスク分析の結果をもとに、対象とする村を選定し現地関係者(郡・コミュニティ)の能力強化を実施中です。

● 2) カカオ生産者・コミュニティの支援

コミットメントに基づき、ガーナのAssin Fosu地区で立花商店と連携し、2022年に自社独自の取り組みとして以下を行いました。

1. 生産者コミュニティへの井戸とポンプの提供（2基、2村）
2. 生産者への農機具の提供（鉋、長靴：1,200セット、15村）
3. 生産者からの買い取り価格上乘せ

● 3) 業界の取り組みとの連携

業界の活動と連携する取り組みを開始しました。

1. 開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォームへの参加（独立行政法人 国際協力機構（JICA）主催）
2. 「児童労働の撤廃に向けたセクター別アクション」賛同（同プラットフォームの「児童労働分科会」策定）



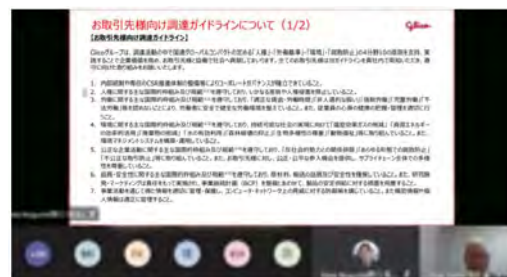
コミュニティでの啓発活動（左）・コミュニティに提供した井戸（右）

【2】パーム油調達取り組み

2019年にRSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し、RSPO認証を受けたパーム油（マスバランス方式）の購入を推進しています。

取引先とのコミュニケーション

Glicoグループでは、「お取引先様向け調達ガイドライン」の周知・徹底を図るとともに、WEBツールを活用した説明会実施等のコミュニケーションを通じて取引先とのパートナーシップを強化しています。



江崎グリコ「お取引先説明会」の様子

地域貢献

基本的な考え方

Glicoグループは事業活動を通じて、人々の健康増進への貢献と、経済・福祉・文化の発展に努めています。さらに、事業活動で培った知見や技術を活用した教育支援、経済・福祉・文化面の社会活動を通じて、コミュニティへ参画し、地域社会の課題解決を目指しています。実施にあたっては、地域社会との対話により課題やニーズを適切に把握し、地域社会の要請や期待に応えるよう積極的に取り組んでいます。

コミュニティへの参画

地域福祉への支援

Glicoグループでは、全国各地で清掃や防犯等のボランティア活動を実施する他、復興や防災、行政による福祉活動の支援を行っています。

グリコワゴンが笑顔を届ける活動を継続展開

「日本中に おいしさと健康、ワクワクと笑顔をお届けしたい。」そんな想いを乗せてグリコワゴンは2010年から走り出しました。2011年の東日本大震災以降は、被災地の訪問活動も含め、子どもたちのすこやかな成長に寄り添い、笑顔を届ける活動を継続しています。

=近年の活動=

- 2021年11月、岩手県釜石市と連携して市内全小学校9校とこども園2園を訪問
- 2022年9月、東日本大震災の被災地である福島県白河市で行われた音楽イベント「風とロック芋煮会2022」に参加
- 2023年3月、「2代目グリコワゴン」が稼働開始

グリコワゴンは、子どもたちのすこやかな成長と家族のつながりを支え、笑顔を届けることで、広く社会に貢献する活動を続けていきます。



釜石市のこども園に訪問した様子（左）と2代目グリコワゴン（右）

事業所周辺の清掃活動を展開

Glicoグループではこれまで全国各地で地域の清掃活動に参加してきましたが、もっと主体的で「Glicoらしい」活動にできないかと考え、Glicoのゴールインマークから発想したジョギングをしながら清掃活動を行う「プロギング（Plogging）」や、コロナ禍でのウォーキングと掛け合わせた清掃活動を、事業所周辺で実施しています。



各事業所で実施した清掃活動

災害被災地でのボランティア活動

災害発生時に事業所周辺の復興作業に従業員が積極的に参加できるよう、支援の仕組みを整備しました。この仕組みを活用して、各地域近隣で勤務する従業員がボランティア活動に参加しています。



佐賀県武雄市でのボランティア活動集合写真

地域社会と協力した防災訓練の実施

地域の方々の安全確保に協力することは、地域貢献活動の中でも重要な取り組み事項であると考えています。本社がある大阪市西淀川区は、海拔ゼロメートル地帯のため、周辺河川が決壊した際には、甚大な被害発生が予想されています。そのため、Glicoグループは有事の際にスムーズに対応できるよう、西淀川区が行う広域防災訓練に、2017年度より参加しています。



Glicoグループ本社敷地内の体育館へ向かう地域住民の方々

地域の社会課題解決に繋がる支援活動

Glicoグループでは、従業員が自社商品を購入する「バイグリコ」活動を、昭和55年から継続して実施しています。バイグリコは、自社の売上貢献はもちろん、地域経済にも貢献する活動として、全従業員で取り組んでいます。近年では、自社商品購入点数をポイント化し、そのポイントを資金として地域貢献活動を行ってきました。2022年度は、「健康」「食」「子ども」テーマで社会課題解決に取り組んでいる団体様への支援を実施しました。今後も継続して各テーマへの支援活動を行っていきます。

<事例> NPO法人様との協働による工場敷地を利用した野菜販売会の開催

グリコマニュファクチャリングジャパン兵庫工場の近隣で、障がいのある方が栽培、販売されていた野菜が、コロナ禍の影響で販路がなくなってしまい、ほとんどが廃棄されている状況を受けて、就労機会と収入確保、フードロス削減の観点から、支援団体であるNPO法人様と協働し、兵庫工場敷地内で従業員向けの販売会を実施しました。現在では従業員の理解も深まり、販売会を楽しみにしてくれるようになりました。こうした取り組みを一過性の活動とするのではなく、野菜の収穫時期に合わせて継続的に開催しています。



野菜販売会の様子

協賛活動

基本方針

人々のココロとカラダの健康や次世代を担う子どもたちのすこやかな成長に貢献したいという想いをもとに、文化及びスポーツ協賛活動に取り組んでおります。

<2022年12月末時点 協賛活動>

主な広告協賛先

- 劇団四季 大阪四季劇場
- ビルボードライブ
- スマイルグリコパーク

主なスポーツ協賛選手

- レーシングドライバー 佐藤 琢磨選手
- テニスプレイヤー 越智 真選手
- テニスプレイヤー 上杉 海斗選手
- プロゴルファー 西 智子選手

地域経済への支援

Glicoグループでは、海外への教育支援等も通じて国内外の地域経済を支援する取り組みを行っています。

シンガポールで「GLICODE®」体験イベント

Glico Asia Pacific（GAP）ではCSR活動の一環として、数年前から家庭や経済的に問題を抱えている人を支援しているシンガポールの団体AMKFSCと協働し、傘下のスプライト・アカデミー・ケア・センターで様々なCSRイベントを実施しています。スプライト・アカデミーは放課後に支援を必要とする7～14歳までの子供たちに対し、社会性と情緒を学ぶ機会を提供している組織です。

コロナ禍によりGAPのCSR活動はしばらくの間バーチャルで実施していましたが、2022年6月以降ようやく対面でGLICODEを使った活動を再開することが出来るようになりました。6月の学校休暇中に2度行われたイベントには約50名の子供たちが参加、Pockyを使って楽しみながらプログラミングを学び、Pockyをより身近に感じてもらう事ができました。



シンガポールで実施した「GLICODE®」体験イベントの様子

<事例> 佐賀県地域振興取り組み「プリン県さが」への参加

グリコマニュファクチャリングジャパン佐賀工場では、「プリン県さが実行委員会」と連携し、佐賀県をプリンの消費量No.1の県にしようとする地域振興の取り組みを実施しています。2022年4月に行われた、入場者600人規模のイベント「よかばいマルシェ」にも参加しました。プッチンプリンが地元佐賀県でも製造していることや、おいしさにこだわった製法や品質についても、地域の方々へお伝えする機会となりました。



<事例> 成人式で北本市とのコラボレーション

埼玉県北本市の成人式実行委員から、成人式の活性化のために地域企業とのコラボレーションをしたいというご要望をいただき、2020年1月から、グリコマニュファクチャリングジャパン北本工場で製造している製品を活用した、新成人記念品をご提供しています。2023年1月の成人式は、北本市ゆるキャラの「とまちゃん」をデザインしたポッキーとプリッツをお渡ししました。



北本市ゆるキャラの「とまちゃん」をデザインしたポッキーとプリッツ

教育支援事例

体験を通じた独自の教育支援

Glicoグループでは、グループが持つさまざまな資源を活用し、独自の教育支援活動を行っています。

工場見学施設「グリコピア」の開設

創業者・江崎利一の「食べることと遊ぶことは子どもの二大天職である」という企業哲学のもとに、訪れた方々がGlicoグループの商品や食文化について楽しく学べる工場見学施設として、「グリコピア神戸」（兵庫県）、「グリコピア・イースト」（埼玉県）、「グリコピアCHIBA」（千葉県）を開設しています。各施設では、併設された工場で製造しているポッキーやブリッツ、パピコやセブンティーンアイスの製造工程の見学や、デジタル空間でオリジナルのお菓子づくりやクイズに挑戦する体験等、地域のお客様をはじめ、多くの方々に「見る・楽しむ・学ぶ」を体感していただいています。



グリコピア神戸（左）・グリコピアCHIBA（右）

子どもたちへの教育支援活動

創業以来、子どもたちのすこやかな成長を願ってきたGlicoグループは、子ども達への教育支援にも取り組んでいます。Pockyを使用してプログラミングの基本的な考え方を学べるGLICODE®（グリコード）や、近年世界的に問題となっている環境課題への取り組み、また、お口の健康に関わるさまざまな問題を重要な社会課題として捉え、食育の一環として自社で開発した「デンテ博士の秘密の実験室」等、さまざまなプログラムを全国の小学校や学童教室等で実施しています。



従業員が講師を務める出前授業の様子

プログラミング教育に携わる先生方への支援

Glicoグループでは、プログラミング教育を通じ、皆様の知的健康に貢献していきたいと考えています。おいしいおかしを食べながら楽しく遊び、学ぶことができるGLICODE®（グリコード）やGLICODE MAKERは、小学校教育にもご利用いただいております。また、プログラミングの指導をされる先生方のお手伝いができればと、2017年以降、授業で使用するキットを作成し、応募いただいた先生方にお配りしました。さらに、2022年12月からは「授業教材コンテンツパック」としてWEB上に公開し、ダウンロードできるようにしました。



キャリア教育による次世代育成

Glicoグループでは、小学生を中心に環境やキャリア教育等の授業を実施しています。こうした活動を通じて、環境問題・キャリア形成に対する関心を喚起し、地域の次世代を担う子供たちの育成に携わっています。

高校生への出張授業

中学校や高校からのニーズに応じた出張授業等も行っています。主に2日間程度のプログラムを構成し、Glicoの事業内容等の紹介から、テーマに沿った形での講義を行います。それを受けて、生徒側で考えた意見・アイデアをレポートにまとめて提出してもらい、後日フィードバックすることで、仕事の一連の流れや、喜び・大変さを疑似体験していただいています。



健康への貢献

健康づくりに寄与する活動

「すこやかな毎日、ゆたかな人生」を存在意義（パーパス）に掲げる食品メーカーとして、Glicoグループが持つ資源の他、外部の知見も取り入れ、健康づくりに寄与するさまざまな活動を展開しています。

「Glicoすこやかな食生活プロジェクト」スタート！！

栄養菓子「グリコ」から始まったGlicoは、2022年に創立100周年を迎えました。新たな100年への第一歩となる2023年、引き続き「おいさと健康」の提供を通して、さらにみなさまの「すこやかな毎日、ゆたかな人生」の実現に貢献していきたいという思いから、「Glicoすこやかな食生活プロジェクト」をスタートいたしました。このプロジェクトは、Glicoのコミュニティサイト「with Glico」を主な活動プラットフォームとして、カラダにうれしい素材のチカラや食事法をお伝えするセミナーや、会員参加型の食生活改善プログラムなどの各種企画を通して、「すこやかな毎日を支える食生活」についての理解を深め、仲間と一緒に体感し、分かち合える機会をお届けしていきます。



アスリートによる子どもたちのすこやかな成長支援

所属アスリートと共に、スポーツを通じて子どもたちのすこやかな成長に寄り添い、ココロとカラダの健康づくりをサポートする活動に取り組んでいます。近年では、プロテニスプレーヤーの越智真選手によるキッズテニス教室や、プロゴルファーの西智子選手によるキッズゴルフ教室などを実施しました。



キッズテニス教室（左）とキッズゴルフ教室（右）に参加した子どもたち

「TAKUMA KIDS KART CHALLENGE」

「一人でも多くの子供たちに、モータースポーツの楽しさを体験してもらい、夢をもつ大切さ、挑戦する楽しさを伝えていきたい」というレーシングドライバー佐藤琢磨選手の想いに賛同し、全国の子どもたちを対象に開催されているカート大会「TAKUMA KIDS KART CHALLENGE」を2014年からサポートしています。

2022年度は、全国23か所でタイムトライアルレースによる予選大会を開催し、1,551名が参加。その中の上位100名によるFINAL大会を、栃木県のモビリティリゾートもてぎで開催しました。FINAL大会では、佐藤琢磨選手によるアドバイスを受けながら、真剣勝負のタイムトライアルを実施。勝ち抜いた上位10名は、後日「TAKUMA KIDS KART ACADEMY」に招かれ、さらなるスキル上達に向けて、佐藤琢磨選手による直接指導と模擬レースを受講しました。

また、2020年から、「TAKUMA KIDS KART CHALLENGE」で優秀な成績を収め、レーシングドライバーを志す子どもたちの第一歩をサポートするスカラシップなどのプログラムも行っています。



「Glico ジャンプアップチャレンジ」

2021年より、女子バレーボールチームの久光スプリングスが運営するスプリングスアカデミーと「子どもたちのすこやかな成長を応援したい」という想いを共にし、「Glico ジャンプアップチャレンジ」を行っています。子どもたちのバレーボールのスキルはもちろん、コミュニケーション力の向上を目指してチャレンジメニューをゲストコーチの元日本代表新鍋理沙さんとともに考案・実施しました。また、成長期の子どもたちに必要な栄養・食事に関するご家族向けの講習会や、グリコピア神戸へのご招待など、さまざまな面で子どもたちの成長を支援する取り組みを行っています。

今後もさまざまなアスリートとともに、スポーツを通じて子どもたちのすこやかな成長に寄り添い、ココロとカラダの健康づくりをサポートしていきます。



公益財団法人 母子健康協会への支援

創業者・江崎利一が、私財を投じて1934年に創設した公益財団法人母子健康協会の活動を江崎グリコは援助しています。公益財団法人母子健康協会は、子どもの心身の健康増進や疾病の予防とその治療に役立つ小児医学研究への助成を中心事業とし、乳幼児のすこやかな成長に関する情報を掲載した機関紙「ふたば」の発行、小児の健康と育児をテーマにしたシンポジウムを開催する等の多彩な活動を行っています。



事業活動の基盤

持続的成長に向けた経営基盤の強化に取り組みます。



コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

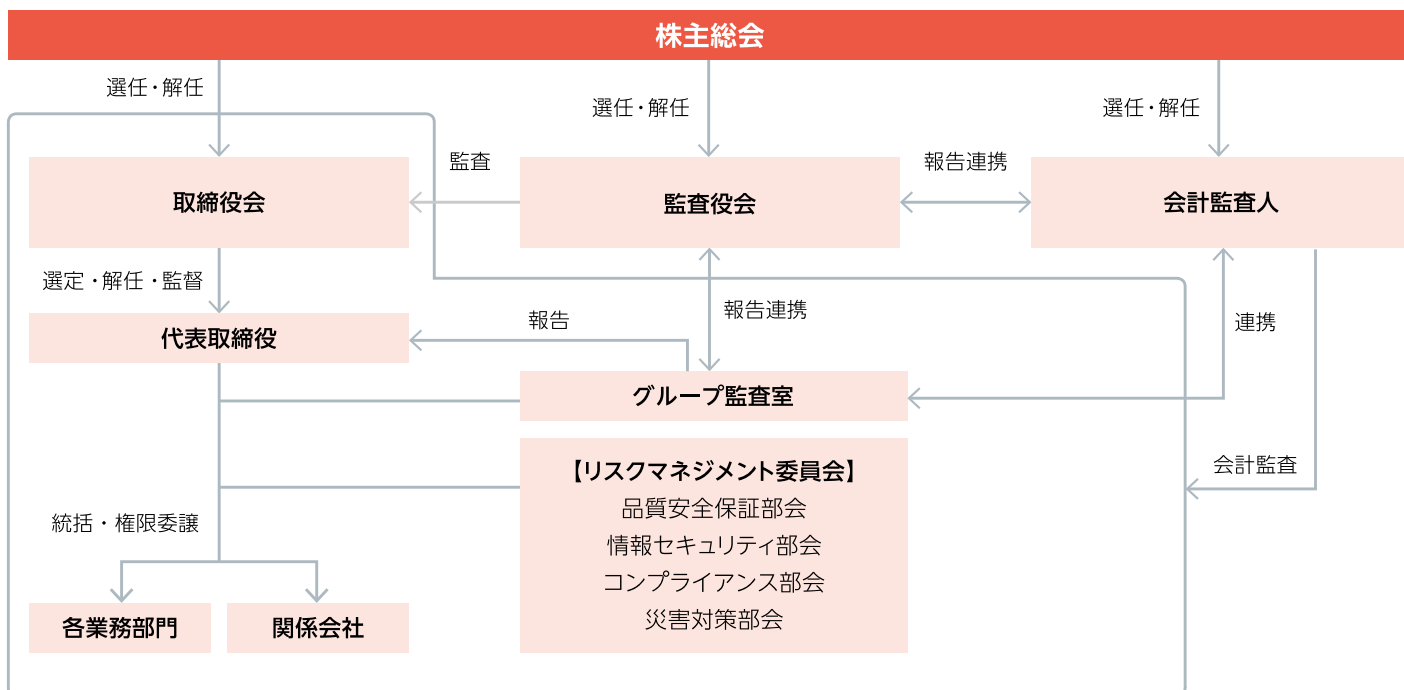
Glicoグループは、企業理念およびGlicoスピリットに基づき、持続的に成長すること、中長期的な企業価値を向上させること、および経営の透明性・効率性を向上させることを目的に、次の基本方針に則り、コーポレート・ガバナンス体制の継続的な充実に取り組みます。

基本方針

1. 株主の皆様の権利の尊重・平等性の確保に努めます。
2. 株主の皆様を含む当社のステークホルダー（お客様、取引先、債権者、地域社会、従業員等）との適切な協働に努め、良好・円滑な関係を構築します。
3. 会社情報の適切な情報開示と透明性を確保します。
4. 透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うため、取締役会の役割・責務の適切な遂行に努めます。
5. 株主の皆様との建設的な対話に努めます。

コーポレート・ガバナンス体制

最高意思決定機関である株主総会の下、重要な業務執行に関する意思決定および各部門（関係会社を含む）による業務執行の監督を行う取締役会、および取締役会の職務執行を監視・監督する監査役会を中心としたコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。本体制により、取締役会における経営の意思決定機能、および業務執行を管理・監督する機能が充実するとともに、経営効率の向上、的確かつ戦略的な経営判断が可能となっています。



コーポレート・ガバナンス体制図

取締役会

取締役会は、取締役8名（うち社外取締役4名、2022年12月31日時点）で構成されており、原則として毎月1回開催され、法令・定款に定められた事項や業務執行に関する重要事項等の審議・決定を行っています。

またGlicoグループは執行役員制度を採用しており、業務監督機能と業務執行機能の分担を明確にするとともに、迅速な意思決定および業務執行の充実を期しています。

監査役会

監査役会は、監査役5名（うち社外監査役3名、2022年12月31日時点）によって運営されています。各監査役は取締役会をはじめとする社内の会議に積極的に参加し、取締役の業務執行に関する監査を行っています。

内部統制

経営の透明性・効率性を向上させ、以て持続的な成長を図るため、「内部統制システムに関する基本方針」を制定し、同方針に基づく内部統制システムを構築し、業務の適正を確保しています。

< 内部統制システムに関する基本方針 >

1. 当社及びグループ会社の取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 当社及びグループ会社の業務執行が適正かつ健全に行われるため、取締役会は実効性のある「内部統制システム」の構築と法令及び定款等の遵守体制の確立に努める。
- ② 法令遵守、企業倫理を確立するための具体的な行動規範としてGlicoグループ「行動規範」を制定し、当社及びグループ会社の取締役はこれを遵守する。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、取締役会の議事録、決裁資料、その他取締役の職務の執行に係る重要な情報を文書又は電磁的媒体に記録し、法令等に従い適正に保存、管理する。

3. 当社及びグループ会社における損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 当社は、当社及びグループ会社の業務執行に係る各種リスクの予防及び迅速かつ確な対処を行うため、リスク対応に関する規程を制定し、リスクマネジメント担当役員を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置する。不測の事態が発生した場合には、直ちに対応策を協議して事態の収拾、解決にあたる。
- ② 「グループ監査室」（「5」「4」の項に定義する。）にて各部門における損失にかかわるリスク管理の状況を定期的に監査し、その結果を社長に報告するほか、必要に応じて各部門の担当役員及び監査役に報告する。

4. 当社及びグループ会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 当社及びグループ会社は、職務権限及び意思決定に関する社内規程を定め、職務の執行が適正かつ効率的に行われることを確保する体制を構築する。
- ② 取締役会を毎月1回開催するほか、執行役員制度を採用し、迅速な意思決定及び業務執行の充実を期する。

5. 当社及びグループ会社の使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 法令遵守、企業倫理を確立するための具体的な行動規範としてGlicoグループ「行動規範」を制定し、当社及びグループ会社の使用人に適用する。
- ② 「リスクマネジメント委員会」のもと、当社及びグループ会社の使用人が利用可能な内部通報制度として「Glicoコンプライアンスホットライン」を設置し、法令等及び社内規程に対する違反等の未然防止及び早期発見のための体制を構築する。
- ③ 「リスクマネジメント委員会」の中に「コンプライアンス部会」を設置し、職務の執行における重大な法令違反の発生を防止する体制を確立する。
- ④ 内部監査部門として社長直轄とする「グループ監査室」を設置し、当社及びグループ会社における内部統制の有効性と妥当性を確認する。

6. 当社及びグループ会社における業務の適正を確保するための体制

- ① グループ会社における業務の適正を確保するため、グループ会社に対し経営状況その他の重要な情報について、当社への定期的な報告を義務付ける。
- ② グループ会社における職務権限及び意思決定に関する基準を定め、グループ会社における職務の執行が適正かつ効率的に行われることを確保する体制を構築する。
- ③ グループ会社におけるコンプライアンスを推進するため、「コンプライアンス部会」が中心となり、法令・社内規程遵守の状況の把握、コンプライアンス研修等、必要な措置を講ずる体制を構築する。
- ④ 法令等及び社内規程に対する違反等の未然防止及び早期発見のため、グループ会社においても内部通報制度である「Glicoコンプライアンスホットライン」の利用を促進する。

7. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びに当該使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

- ① 監査役会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、若干名で構成される「監査役室」を置く。
- ② 「監査役室」に所属する使用人の取締役からの独立性を確保するため、当該使用人の任命、異動等の人事権に関わる事

項の決定等については、監査役会の事前の同意を得る。

③「監査役室」に所属する使用人は、業務の執行にかかる役職を兼務しないこととし、もっぱら監査役の指揮命令に従わなければならない。

8.当社及びグループ会社の取締役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社監査役に報告をするための体制

①当社及びグループ会社の取締役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、当社監査役から職務の執行に関し報告を求められたときは、速やかに適切な報告を行う。

②当社は、当社及びグループ会社の取締役及び使用人が職務の執行に関し、重大な法令・定款違反、若しくは不正行為の事実、又は当社若しくはグループ会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったときには、速やかに当社監査役に報告する体制を構築する。

③「グループ監査室」、「リスクマネジメント委員会」等は、当社監査役に対して定期的に当社及びグループ会社における内部監査、内部通報の状況等を報告する。

④当社監査役へ報告を行った当社及びグループ会社の取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。

9.その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

①監査役の求めに応じ、必要な情報を提供し、各種会議への監査役の出席を確保する。

②監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務は、職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに処理する。

10.反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及び体制整備について

当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切の関係を遮断するとともに、これら反社会的勢力に対しては、弁護士や警察等の外部専門機関と緊密に連携し、毅然とした姿勢で対応する。

内部監査および監査役監査について

内部監査および監査役監査の組織は、内部監査専門部署であるグループ監査室および5名の監査役で構成されています。グループ監査室では、財務報告に関わる内部統制評価の方法について会計監査人から助言を受け、整備および運用の評価を実施しています。また監査役会とも連携を図りながら、各事業所に対して内部統制全般に関わる業務を監査し、その結果を社長および監査役に報告しています。

監査役は、期初に策定した監査計画に基づき、業務全般にわたる監査を実施しています。監査役は取締役会に常時出席することはもとより常勤監査役は社内の重要会議にも積極的に出席し、法令違反や定款違反、株主利益を侵害する事実の有無について重点的に監査しています。

会計監査人は、監査計画および監査経過について監査役と年4回の意見交換を行い、相互連携を図りながら監査を行っています。会計監査人による監査結果の報告には、監査役およびグループ財務責任者が出席しています。さらに重要な関係会社については、会社法監査を監査法人に委託しています。

社外取締役および社外監査役について

社外取締役は4名、社外監査役は3名（2022年12月31日時点）です。社外役員を選任するための独立性に関する基準または方針について特段の定めはありませんが、選任にあたっては、証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にし、社会的経験・知見から独立的な立場でGlicoグループの経営に資する人選を行っています。

社外取締役は、取締役会での議案審議にあたって適宜質問や意見表明を行うことを通じて取締役会の活性化を図るとともに、経営監視機能としての役割を果たしていると判断しています。

リスクマネジメント

以下の目的を実現するため、リスクマネジメント委員会を設置し、グループのリスクマネジメントに繋がる事項に関する方針決定、クライシスへの対応、およびそれらに関する一切の事項を把握し審議のうえ施策の立案・実行を行っています。

1. グループにおけるリスクを把握するとともに、法令および各種ルール等の遵守についてグループ内において周知徹底し、以て、リスクの顕在化によるクライシスの発生を未然に防ぎ、万が一発生した場合に生じる負の影響を最小限に抑えるための策を講じることに努める。
2. 発生したクライシスにつき、それによって生じる損害を含む負の影響を最小限に抑えるとともに、当該クライシスによる危機状態からの早期の脱出および回復を図ることに努める。

また、グループのリスクマネジメントの効果的な実現のため、同委員会直下の下部組織として、コンプライアンス部会、品質安全保証部会、情報セキュリティ部会、災害対策部会の4つの部会を設け、それぞれ以下の活動を行っています。

1. コンプライアンス部会：Glicoグループ各社における必要な社内規程の整備および法令・社内規程遵守の周知徹底と実践の励行を含むグループ全体でのコンプライアンスの推進
2. 品質安全保証部会：お客様の安全・安心を最優先として全ての製品とサービスを提供するための品質保証活動の強化
3. 情報セキュリティ部会：グループにおける情報セキュリティの推進および情報漏洩を含む各種事故等の発生防止
4. 災害対策部会：事業継続計画（Business Continuity Plan（BCP））の策定および実行体制の整備（BCPの周知・教育・訓練を含む）

さらに重大事案発生時には、同委員会とは別に緊急危機対策本部を設置することとしています。

コンプライアンス

コンプライアンスに関する基本的な考え方

Glicoグループは、ビジネス上の競争力を維持・強化するためだけでなく、企業としての持続可能性（サステナビリティ）向上を通じて社会を支えていくために、法令や会社のルール、倫理や道徳といった社会規範を守る「コンプライアンス」が必要不可欠と考え、その実現に真摯に取り組んでいきます。

コンプライアンス推進活動

社長直轄のリスクマネジメント委員会を構成する部会の一つであるコンプライアンス部会が中心となって、Glicoグループ各社において必要な社内規程を整備するとともに、法令・社内規程遵守の周知徹底と実践の励行および必要な教育・研修を実施し、グループ全体でコンプライアンスを推進しています。

贈収賄防止活動

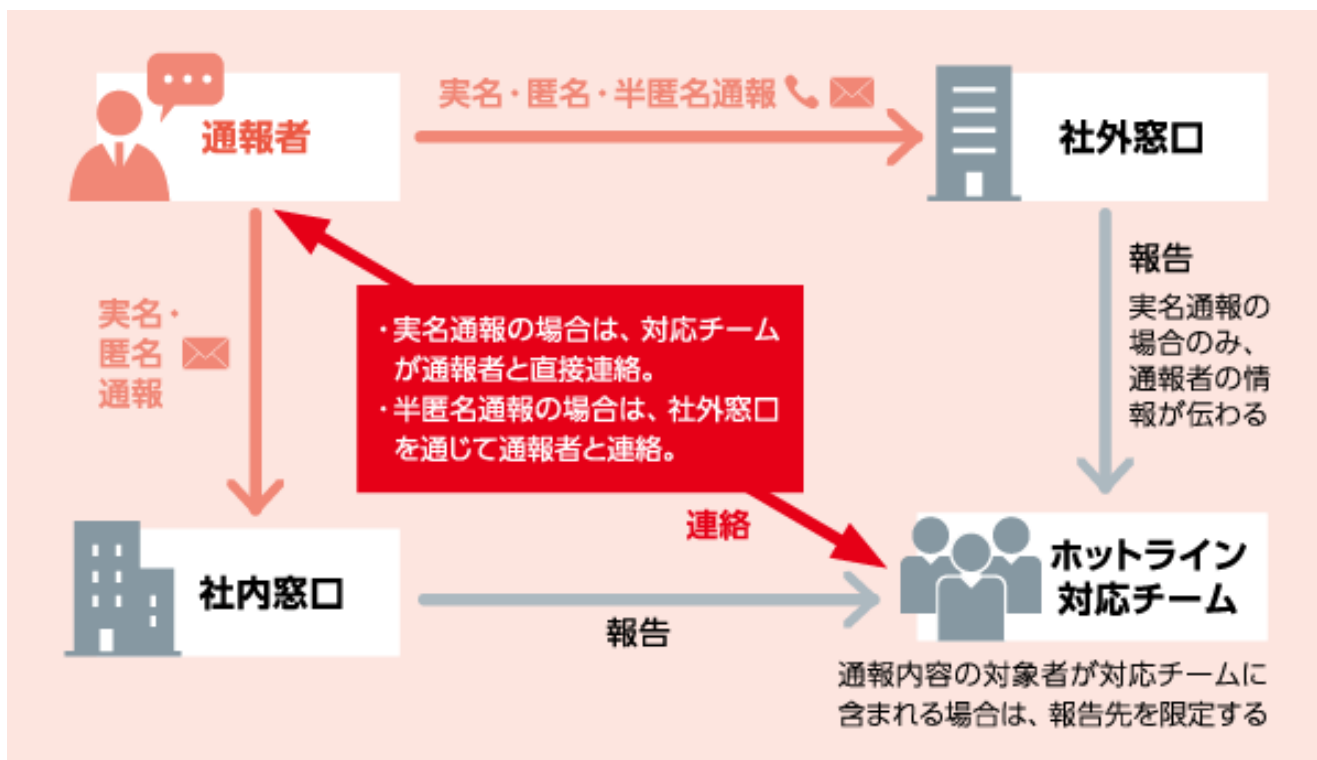
Glicoグループの事業拠点が所在する国につき、日本および特に贈収賄リスクが高いと思われる国（ASEANおよび中国）を先行させながら、順次適切な贈収賄防止規程を策定し、従業員教育を実施しています。

個人情報保護関連活動

昨今の各国地域における個人情報保護法令の厳格化に対応すべく、国内外のGlicoグループ企業を対象としたお客様向けプライバシーポリシーを再整備し公表しているほか、Glicoグループ企業において個人情報を適切に取り扱うための各種取り組みを進めています。

Glicoコンプライアンスホットライン

Glicoグループの役員・従業員一人ひとりによる法令違反や社内規程への違反行為の未然防止と早期発見を目的として、「Glicoコンプライアンスホットライン」を設けています。違反またはその疑いを発見した者は、自身が不利益を被る危険を懸念することなく会社に通報することができます。通報に対しては、社内中立的な調査機関が調査・対応します。実名通報、匿名通報、半匿名通報の3つのパターンがあり、Glicoグループにおけるパート・アルバイト等を含む全ての役員・従業員が利用可能です。



Glicoグループ 健康経営



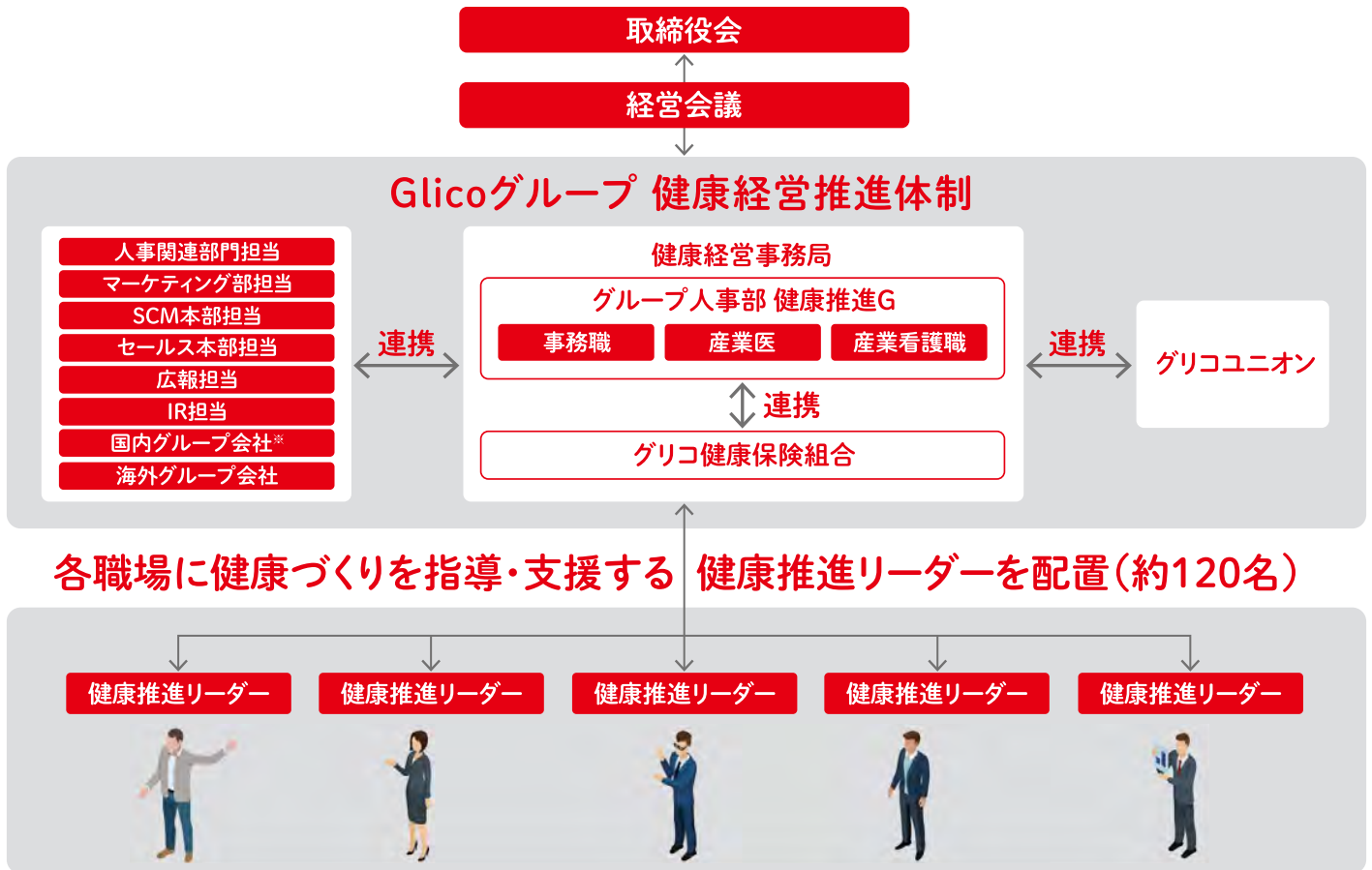
Glicoグループが持続的に成長・発展し、事業を通して社会に貢献し続けるためには、Glicoグループで働く従業員自身が、心身ともに健康であり、働きがいをもっていきいきと働き続けられることが欠かせないと考えています。従って、Glicoグループでは従業員の健康維持・増進を重要な経営課題と位置づけ、従業員自身の主体的な健康づくりを積極的に支援しています。そして、働き方改革や業務効率化、生産性やエンゲージメントの改善・向上、ダイバーシティ&インクルージョンといった他の組織的課題とも連動して中長期的な視点で健康経営を体系的に推進しています。

Glicoらしい健康経営により、ココロもカラダも健康な従業員が多様な個性を引き出し合い、Glicoの「存在意義（パーパス）」と「ありたい会社の姿（ビジョン）」の実現を目指すことで、イノベティブなアイデアやチャレンジを生み出し、自社の健康課題はもちろん、社会の健康課題解決に貢献していきます。

Glicoグループ健康経営宣言

Glicoグループは、「すこやかな毎日、ゆたかな人生」の実現に向け、「人々の良質なくらしのため、高品質な素材を創意工夫することにより、『おいしさと健康』を価値として提供し続ける」ことを目指しています。
この実践のためには、多様な社員が共有する目的のために協同一致し、創意工夫によって能力を発揮し、高い生産性を保つことが重要です。
そしてこの源泉は、社員自身が心身ともにすこやかな毎日を送るように努めることにあります。
このような考えに基づき、Glicoグループは全員一丸となって健康経営を推進し、社員一人ひとりが健康保持・増進に取り組みます。

2022年9月1日
江崎グリコ株式会社
代表取締役社長 江崎 悦朗



※グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社、グリコチャンネルクリエイティブ株式会社、グリコ栄養食品株式会社、中部グリコ栄食株式会社、関西フローズン株式会社、東北フローズン株式会社

Glicoグループでは、経営トップの健康経営宣言に基づき、全員一丸で健康経営を推進するために、各職場に健康推進リーダーを配置し、推進リーダーを中心に主体的に健康づくりに取り組んでいます。また、会社と健康保険組合、ユニオン、産業保健スタッフが緊密に連携することで、健康経営施策の企画、検討、実行、効果検証といったPDCAを推進しています。

具体的な取り組み

【社内取り組み】

全社で健康経営を推進するにあたり、Glico健康経営宣言を制定し社内に周知し、健康の基本となる3つの側面（運動・栄養・休息）から、まずは自身の状態を理解し、必要な知識を身につけ、健康行動を実践・習慣化するというサイクルを繰り返していくという方針を定めました。

この方針に基づき、日々の歩数や食事内容、睡眠の質・時間を記録できるヘルスケアアプリを導入し、従業員はアプリを活用して運動・栄養・休息のPDCAに取り組んでいます。

また、必要な知識を身につけてもらう目的で、歩き方セミナーや睡眠の質を高めるセミナー、糖質を適正化するロカボセミナー、レジリエンスを高めるマインドフルネス研修等を実施しています。



歩き方セミナーの様子（左）・睡眠セミナーの様子（右）

健康行動の実践と習慣化のために、主体的な健康づくりを促進する従業員にインセンティブポイントを付与し、年間の累計ポイント上位者を表彰する制度を設けています。また、チーム対抗のウォーキングイベントやオンラインヨガ教室の定期開催等を実施しています。これらの取組みを職場で周知し、従業員に健康づくりの知識やノウハウを伝え、指導する健康推進リーダーを配置しています。推進リーダーには、より高いヘルスリテラシーを身につけてもらうために、日本健康マスターの資格取得を会社で支援しています。（2023年3月時点：日本健康マスター検定取得者 ベーシック/300名、エキスパート/243名、普及認定講師/9名）

運動・栄養・休息を軸にした健康づくりは生活習慣病の予防にとって重要ですが、従業員の公私ともに充実した生活を実現するためには、疾病の早期発見・治療も欠かせません。早期に治療することで、従業員にとっては心身の負担だけでなく経済的な負担の軽減も期待でき、組織にとってもプレゼンティーイズム（健康問題による勤務時の生産性低下）・アブセンティーイズム（健康問題による欠勤）の低減につながることから、確実に健診を受診し、アフターフォローを徹底できる産業保健スタッフ体制の拡充・整備に取り組んでいます。

また、従業員には検診の重要性を理解してもらうべく、専門家を招いて各種疾患に関するセミナー（乳がん、子宮がん、大腸がん等）を実施しています。

※データヘルス計画に基づき、生活習慣病と悪性新生物を優先課題として取り組んでいます。



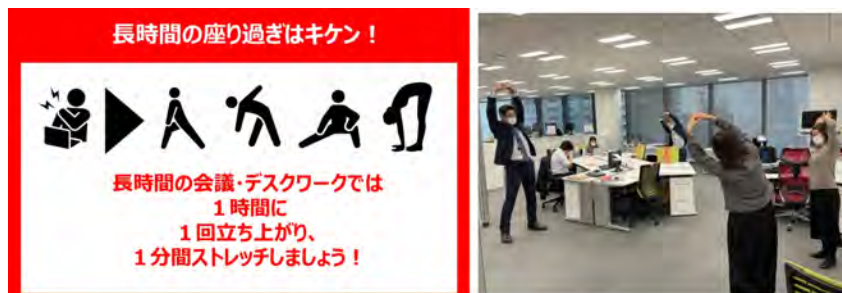
乳がんセミナー受講の様子および乳がんのしこりを再現した模型で参加者が感触を確かめる様子

また、喫煙習慣は「循環器疾患」「呼吸器疾患」「がん」「歯周病」等さまざまな疾患のリスクを高めることが分かっており、喫煙習慣のない家族や他の従業員、取引先等関係者の皆様に二次喫煙（受動喫煙）や三次喫煙のリスクが懸念されることから、2019年1月より就業時間中の喫煙を禁止にしました。並行して、喫煙のリスク、禁煙のメリットを理解してもらう禁煙セミナーを開催し、禁煙外来にチャレンジし成功した方への費用補助を開始しています。

医療費のような定量データに表れない組織の健康状態やプレゼンティーイズムを把握し、それらの改善PDCAを実行するために、ストレスチェックを兼ねたアンケート調査を年2回実施しています。

また、従業員の体調や仕事の満足度、人間関係の変調を早期に捉えるために毎月数問の簡単な設問からなるパルスサーベイを実施しています。上司がタイムリーなケアとフォローを行うことで、相互信頼を高め、働きがいやエンゲージメントの向上・改善を図りたいと考えています。

そのほか、長時間座ってデスクワークすることの健康障害リスクが注目されていることから、全従業員に対し「1時間に1回は立ち上がって1分間ストレッチしましょう」という「EVERY1活動」も展開しています。



「EVERY1活動」掲示ポスター（左）・職場ストレッチの様子（右）

<コロナ禍における取り組み>

コロナ禍には、セミナーやヨガ教室はオンラインのWEB会議方式で開催しました。加えて、在宅勤務継続による運動不足解消のため、家でできる簡単なストレッチや運動に関する動画を配信しています。また、テレワーク中の従業員のストレス緩和のため、コミュニケーション活性化を目的に、WEB懇親会の費用補助も実施しています。



オンラインヨガ教室の様子（左）・オリジナルストレッチ動画（右）

ダイバーシティ&インクルージョンの促進

Glicoグループでは、従業員が多様な個性を引き出し合い、自身の能力や経験を生かして活躍することが、イノベティブなアイデアやチャレンジを生み出し、新しい価値の創出の鍵を握ると考え、ダイバーシティ&インクルージョンに真摯に取り組んでいます。

プレゼンティーズムを可視化するウェルネスサーベイでは、Glicoグループで働く女性の4割以上が精神面の不調を感じ、20～30歳代の女性の約半数が生理痛と精神面の不調を抱えているという結果となりました。組織全体のパフォーマンスを高めるためには女性特有の健康事情に対する全社的な理解促進が必要であると考え、生理痛や更年期障害に関するセミナーを実施し、意見交換を行うことで相互の理解を深める研修も他社と共同で実施しています。

メンタルヘルス

Glicoグループでは、【セルフケア】、【ラインによるケア】、【事業場内産業保健スタッフ等によるケア】及び【事業場外資源によるケア】の4つのケアを継続的かつ計画的に行えるよう、2022年から産業保健体制の拡充・整備に取り組んできました。2023年からは、専門職が従業員一人ひとりに寄り添って予防・保健活動を推進しています。

- 【セルフケア】については、新卒・キャリア入社者の研修の中で、セルフケアの重要性やポイントを講義し、ストレスやメンタルヘルスに対し正しい理解を持ってもらえるよう努めるとともに、不調を感じたときには気軽に相談できる場があることを周知しています。
- 【ラインによるケア】はストレスチェック等の各種サーベイ後の職場環境改善において、管理監督者へのサポートを強化し、心理的安全性が担保され、強い信頼関係の下、健全なコンフリクトが奨励されるような活力のある組織風土の醸成に取り組んでいます。
- 【事業場内産業保健スタッフ等によるケア】においては、休復職の運用フローの再構築、長時間労働者への対応フローの見直しを進めるとともに、メンタルヘルス不調者の早期発見、再発の防止を実現すべく、保健師を配置し、関係者とのコミュニケーションを重ねて、効率的・効果的オペレーションの確立に取り組んでいます。
- 【事業場外資源によるケア】は、法人契約による外部委託業者を活用し、従業員が健康について外部の専門家に24時間電話相談できる窓口を設置し、必要に応じてカウンセリングにつなげられるようにしています。

今後も産業保健専門職とスタッフが相互連携を深め、4つのケアを中心に体系的・継続的にメンタルヘルス取り組みを推進していきます。

【対外取り組み】

Glicoグループでは、お客様の「すこやかな毎日、ゆたかな人生」の実現をサポートするため、睡眠や栄養など健康に関する専門家を招き、健康の維持増進に役立つセミナー（with Glicoウェルネスキャンパス）を継続的に開催しています。



みんなとつながる ファンのまち

- 第1回：2020年9月27日：「ロカボセミナー」
北里大学北里研究所病院糖尿病センター長、食・楽・健康協会代表理事 山田悟先生
- 第2回：2020年10月20日：「歳をとると腸内も歳をとる?!」
慶應義塾大学先端生命科学研究所特任教授、および株式会社メタジェン代表取締役社長CEO 福田 真嗣先生
- 第3回：2020年11月25日：「健康寿命と美容寿命 ～サビないためのインナーケア」
大阪市立大学医学部 名誉教授 井上正康先生
- 第4回：2021年3月31日「1日8,000歩・速歩き20分で長寿遺伝子のスイッチオン」
東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム研究室長 青柳幸利先生
- 第5回：2021年5月17日：「コロナ禍の睡眠障害リスクとより良い睡眠を得るために」
スタンフォード大学医学部精神科教授 西野精治先生
- 第6回：2021年10月8日：「もしもに備える防災セミナー ～防災食と、命を守る防災セット～」
管理栄養士・防災士・災害食専門員 今泉マユ子先生
- 第7回：2022年3月18日「ゆらぎ世代の女性必見!？『毎日カンタン習慣で整える睡眠』」
スタンフォード大学医学部精神科教授の西野 精治先生
- 第8回：2022年9月12日「睡眠環境を整える“ポジティブルーティン”のススメ」
スタンフォード大学医学部精神科教授の西野 精治先生、
株式会社ワコール人間科学研究開発センター徳光奈美子先生、
江崎グリコ商品技術開発研究所 古谷正樹氏

※オフィスグリコのサービスを導入いただいている企業様の健康経営サポートとして、健康づくりの基礎的なポイントを知っていただくための健康セミナーも実施しています。

また、自社を超えた健康増進に関する取り組みとして、原材料の調達にあたっては、取引先における安全衛生や健康経営等の取り組みについてセルフ・アセスメントしていただく調査票への回答をお願いし、サプライチェーン全体の健康増進に対する取り組み状況の把握に努めています。今後は取引先の健康課題や要望に基づいて健康増進施策を共同で実施するなど、自社を超えて社会の健康に寄与できる取り組みを検討・展開していく予定です。

社会からの評価

健康経営優良法人2023 ホワイト500に認定されました

2018年7月より本格的に推進してきた健康経営の取り組みが評価され、江崎グリコ株式会社が2021年に引き続き3年連続、グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社が2022年に引き続き2年連続、そしてグリコチャネルクリエイト株式会社が初めて、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人 ホワイト500」に認定されました。

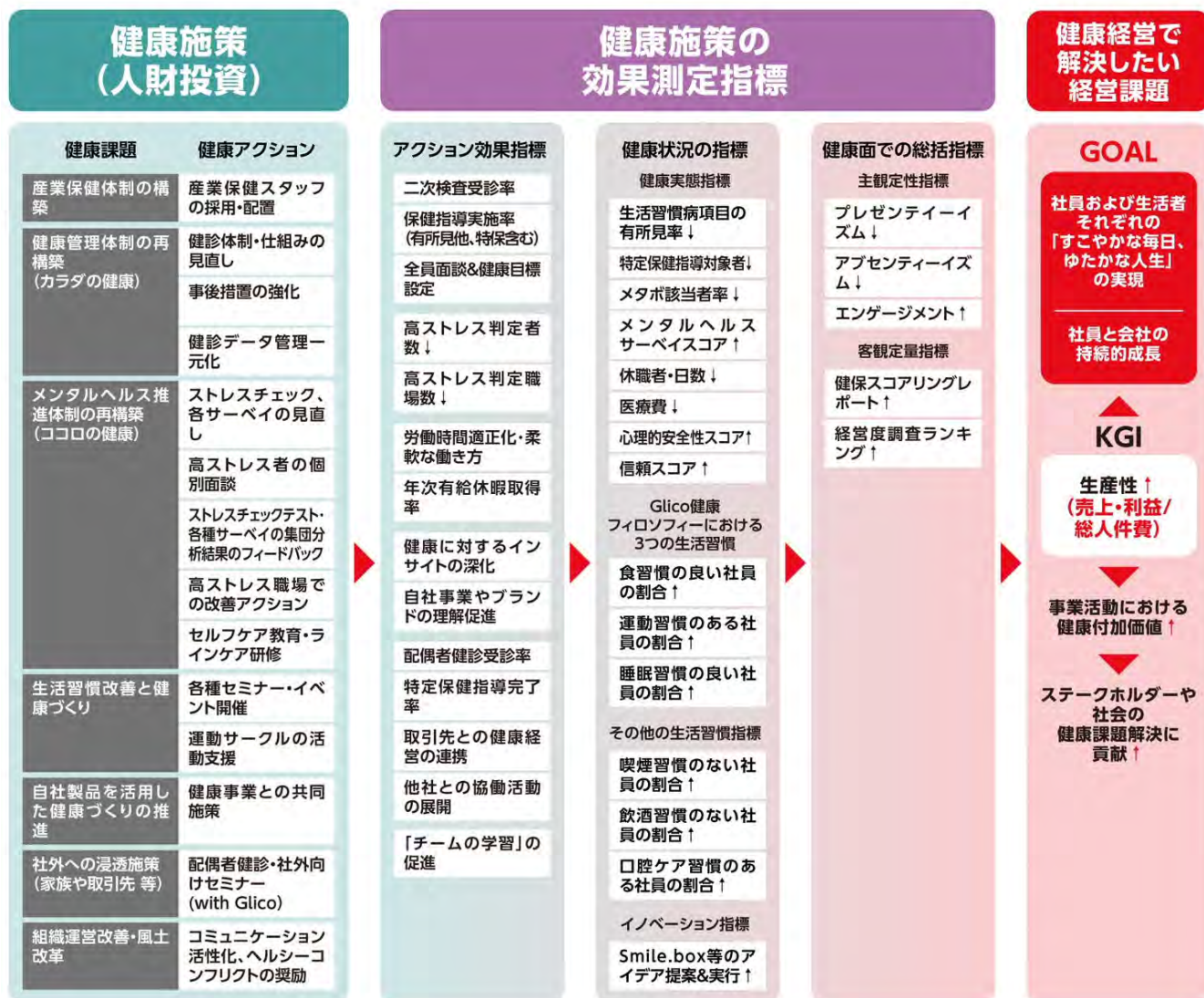


「テレワーク先駆者百選 総務大臣賞」を受賞

2020年11月、総務省が主催する「テレワーク先駆者百選」において、最高位となる「総務大臣賞」を受賞しました。2015年の在宅勤務制度の導入を皮切りに早い段階からテレワークの活用を進め、2018年にはイノベーションの創出、生産性の向上、ワークライフバランスの充足を目的にテレワーク制度を導入。その後もPC機器や通信環境の拡充、ペーパーレス化、ICTの活用といった様々な就業環境を整備してきたこともあり、コロナ禍では高いテレワーク実施率を実現（約75%）していたこと、育児介護従事者や障がい者の就業支援、BCP（事業継続計画）対策などの経営面での効果ならびに社会的貢献という観点でも価値ある取り組みとして評価されました。



Glicoグループ 健康経営戦略マップ



※健康投資管理会計ガイドラインに基づき当社の経営課題・健康指標を整理しました。

私たちは事業を通じて社会に貢献し続けることで「存在意義（パーパス）」と「ありたい会社の姿（ビジョン）」の実現を目指しています。そのためには従業員一人一人の成長を通じた会社の持続的発展が欠かせません。健康経営を推進するにあたっては、KGI（Key Goal Indicator）を生産性の向上とし、KPI（Key Performance Indicator）にはプレゼンティーイズムとアブセンティーイズムの低減、エンゲージメントの向上を設定しました。これらの指標に直接的に影響する、より客観的な定量データとして有所見率の減少や休職日数の低減、良い生活習慣を維持する従業員の増加、組織の心理的安全性や信頼スコアの向上などもアウトカム指標として組み込み、そのプロセスとなるセミナーやワークショップ、イベント等の参加率や満足度・理解度をアウトプット指標に位置付けました。この戦略マップに基づいて、従業員には改めて健康経営に取り組む目的やPDCAする指標、各種施策の意図を説明・対話し、理解浸透を図るとともに、経営層とは課題認識や取り組みの進捗状況について定期的に共有・意見交換を行っています。

健康経営データ集

健康経営戦略マップに基づき、健康経営を中長期的な視点で体系的に推進し、KGIやKPIを中心とした各種指標のPDCAを回していきます。

		2020年10月	2021年10月	2022年10月		2024年目標	
アウトカム (最終指標)	主観指標	プレゼンティーイズム	24%	25%	25%	±0	13%
		アブセンティーイズム	7%	6%	8%	(+1)	3%
		エンゲージメント	50	51	50	(▲1)	58
	客観指標	平均歩数(歩/日)	5,417	5,094	5,346	(+252)	8,000
		ウェルネススコア(偏差値)	50	50	50	±0	58
		有所見率	48%	49%	-	-	40%
		喫煙率	21%	19%	20%	(+1)	10%
		高ストレス判定者率	13.3%	12.7%	12.7%	±0	10%
		コンディションサーベスコア	9.33	9.50	9.44	(▲0.6)	10.00
		ENPS	4.48	4.58	4.52	(▲0.06)	5.00
アウト ブット (中間指標)	実行・維持期(%)	33%	35%	34%	(▲1)	50%	
	DAU(%)	38.6%	37.0%	39.7%	(+2.7)		
	運動ミッション達成率(%)	8.8%	9.1%	38.3%	(+29.2)		
	食事ミッション達成率(%)	-	-	21.4%	-		
	睡眠ミッション達成率(%)	23.5%	31.0%	48.9%	(+17.9%)		
	WKイベント参加率(%)	35.2%	39.8%	35.8%	(▲4.0)		

※主観指標の評価方法について

- プレゼンティーイズム：SPQ (Single-Item Presenteeism Question 東大1項目版)
- アブセンティーイズム：健康に関するサーベイの回答結果
- ワークエンゲージメント：ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度をベースに外部業者が開発したサーベイのスコア

関連団体への参画


国連グローバル・コンパクト

国連グローバル・コンパクト（以下、国連GC）とは、各企業・団体が責任あるリーダーシップを発揮しつつ、社会の良き一員として行動し、世界の持続可能な成長を実現するための取り組みです。国連GCは、「人権」・「労働基準」・「環境」・「腐敗防止」の4分野で10の原則を示しており、企業に対してそれらの原則を支持し、遵守するよう求めています。江崎グリコは2019年10月16日に国連GCに署名しており、持続可能な循環型社会の実現を目指して、国連GCの掲げる原則の実現につながる取り組みを進めています。



国連グローバル・コンパクトの4分野10原則

【人権】	原則1：人権擁護の支持と尊重 原則2：人権侵害への非加担
【労働】	原則3：結社の自由と団体交渉権の承認 原則4：強制労働の排除 原則5：児童労働の実効的な廃止 原則6：雇用と職業の差別撤廃
【環境】	原則7：環境問題の予防的アプローチ 原則8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則9：環境にやさしい技術の開発と普及
【腐敗防止】	原則10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み

CSRレポート2023に関するアンケートにご協力ください 

アンケートサイトへリンクします。

<https://www.dff.jp/enquete/activeEnq/GLICO>



江崎グリコ株式会社

www.glico.com/jp/